Canon

IXY DIGITAL 110 IS

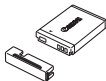
カメラユーザーガイド

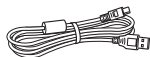
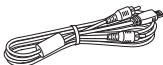
日本語

- ご使用前に必ずこのカメラユーザーガイドをお読みください。
- 将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

カメラと付属品の確認

お使いになる前に、以下のものが入っていることを確認してください。
万一、不足のものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ

バッテリーパックNB-6L
（端子カバーつき）

バッテリーチャージャー
CB-2LY

インターフェースケーブル
IFC-400PCU

AVケーブル
AVC-DC400

リストストラップ
WS-DC7

カメラユーザーガイド
（本書）

DIGITAL CAMERA
Solution Disk

保証書

サポートガイド

ソフトウェアのインストール終了後、デスクトップのショートカットアイコンをクリックすると、以下の電子マニュアル（PDF形式）を参照できます。インストールができない場合は、CD-ROM内の「Readme」フォルダからご覧ください。

- **はじめよう！おうちプリント**
  カメラとプリンターをつないで印刷するときにお読みください。
- **ソフトウェアクイックガイド**
  カメラとパソコンをつなぐときにお読みください。
- **ZoomBrowser EX / ImageBrowserソフトウェアガイド**

- メモリーカードは付属されていません。
- 電子マニュアル（PDF形式）をご覧になるには、Adobe Readerが必要です。

はじめにお読みください

試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをし、撮影後は画像を再生して画像が正常に記録されていることを確認してください。万一カメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

このカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障や不具合が生じた場合は、帰国したあと、別紙の相談窓口へご相談ください。

液晶モニターについて

液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。

長い時間使う際のご注意

このカメラは、長い時間お使いになっていると、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

メモリーカードの記載について

このカメラで使えるメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

やりたいこと目次

撮る

見　る

動画を撮る／見る

印刷する

残　す

その他

目次

このガイドは、1～3章までの説明で、このカメラの基本的な操作やよく使う機能がわかるようになっています。4章以降は高度な機能を説明していますが、読み進めることでステップアップできるようになっています。

5 もっとカメラを使いこなそう..............................75

6 動画のいろいろな機能を使ってみよう.........................83

7 いろいろな再生とその他の機能を使ってみよう 87

8 カメラの機能を自分好みに変えよう 103

9 カメラを使うときに役立つ情報..........................111

安全上のご注意

- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、製品を正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
- 別売アクセサリーをお持ちの場合は、付属の使用説明書もあわせてご確認ください。

⚠ **警告** 死亡または重傷を負う可能性がある内容です。

⚠ **注意** 傷害を負う可能性がある内容です。

注意 物的損害を負う可能性がある内容です。

⚠ 警告

カメラ

- **カメラのファインダーで強い光源（晴天時の太陽など）を見ない。**
  視力障害の原因となります。
- **ストロボを人の目に近づけて発光しない。**
  視力障害の原因となります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
- **お子様や幼児の手の届くところで保管しない。**
  ストラップ：誤って首に巻きつけると、窒息することがあります。
  カード、日付／時刻用電池：誤って飲み込むと危険です。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。
- **分解、改造しない。**
- **落下などで破損した場合は、内部には触れない。**
- **煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生した場合は、使わない。**
- **アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。**
- **内部に液体や異物などを入れない。**
  感電、火災の原因となります。
  万一、液体や異物が入った場合は、すぐに電源を切り、その後必ずバッテリーを取り出してください。
- **指定外の電源は使わない。**
  感電、火災の原因となります。

バッテリー、バッテリーチャージャー

- **指定外のバッテリーは使わない。**
- **バッテリーは火に近づけたり、火の中に投げ込まない。**

- **水や海水などの液体で濡らさない。**
- **分解、改造したり、加熱しない。**
- **落とすなどして強い衝撃を与えない。**
  バッテリーが破裂や液漏れし、けがや周囲を汚す原因となったり、火災、感電の原因となることがあります。万一、電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。
  また、バッテリーチャージャーが液体で濡れたときは、コンセントから抜いて、お買い上げになった販売店または修理受付窓口にご連絡ください。
- **バッテリーを充電するときは、指定されたバッテリーチャージャー以外は使わない。**
- **電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工しない。**
- **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったホコリや汚れを乾いた布で拭きとる。**
- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**
  感電、火災の原因となります。

その他

- **付属のCD-ROMは、CD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しない。**
  音楽用CDプレーヤーで再生してヘッドフォンなどを使用した場合は、大音量により聴力障害の原因となります。また、音楽用CDプレーヤーで使用した場合は、スピーカーなどの破損の原因となります。

⚠ 注意

- **ストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。**
- **レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。**
  けがやカメラの故障の原因となります。
- **コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない。また、電源コードや電源プラグが傷んでいたり、コンセントの差し込みが不十分なまま使わない。**
  感電、火災の原因となることがあります。
- **以下の場所で使用・保管しない。**
  - **直射日光のあたるところ**
  - **40度以上の高温になるところ**
  - **湿気やホコリの多いところ**

  バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。また、カメラが熱により変形することがあります。
- **電源プラグや充電端子に金属製のピンやゴミを付着させない。**
  感電、火災、故障の原因となることがあります。

注意

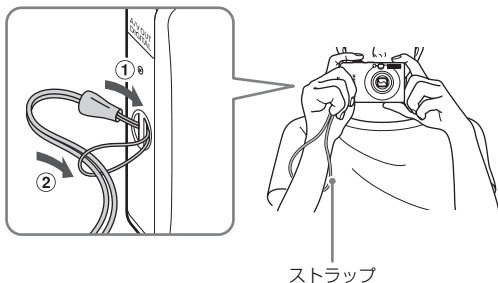
- **カメラを強い光源（晴天時の太陽など）に向けない。**
  撮像素子が損傷する場合があります。
- **砂浜や風の強い場所で使うときは、カメラの内部にホコリや砂が入らないようにする。**
- **ストロボを手や布などで覆ったり、ゴミやホコリなどがついたまま発光しない。**
  故障の原因となることがあります。
- **バッテリーチャージャーは、使用しないときや充電が終わったときは、電源コンセントから外す。**
- **布などをかけたまま充電しない。**
  長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。
- **使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出して保管する。**
  カメラにバッテリーを入れたままにしておくと､液漏れにより故障の原因となることがあります。
- **バッテリーを廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。**
  他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となります。
- **ペットの近くにバッテリーを置かない。**
  バッテリーに噛みついた場合、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、故障や火災の原因となることがあります。
- **ズボンのポケットにカメラを入れたまま椅子などに座らない。**
  液晶モニターの破損の原因となります。
- **かばんにカメラを入れるときは、硬いものが液晶モニターにあたらないようにする。**
- **ストラップにアクセサリーをつけない。**
  硬いものが液晶モニターにあたると破損の原因になります。

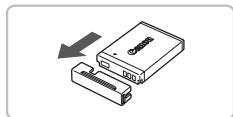
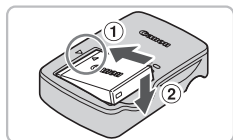
1

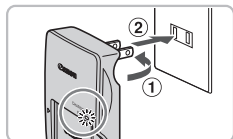
さっそくカメラを使ってみよう

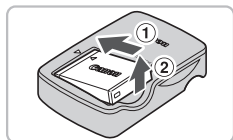
この章では、撮影前の準備、AUTO（オート）での撮影、画像を見る、消す、印刷する一連の操作について説明しています。また章の後半では、動画を撮る、見る方法や、パソコンへ画像を取り込む方法について説明しています。

ストラップを取り付ける／カメラを構える

- 付属のストラップをカメラに取り付け、撮影時にはカメラを落とさないように、手首に通してお使いください。
- 撮影するときは、脇をしめてカメラが動かないようにしっかりと構え、ストロボに指がかからないようにしてください。

充電する

カメラに付属の充電器を使って、バッテリーを充電します。

1 カバーを外す

2 バッテリーを取り付ける

- バッテリーと充電器の▲をあわせて、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り付けます。

3 充電する

- プラグを①の方向へおこして、②コンセントに差し込みます。
- ▶ 充電がはじまり、ランプが赤色に点灯します。
- 充電は、約1時間55分で完了し、ランプが緑色に点灯します。

4 バッテリーを取り外す

- 充電器をコンセントから抜き、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り外します。

バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。

撮影できる枚数の目安

撮影枚数	画面表示時*	260枚
	画面非表示時	700枚
再生時間（時間）	6時間	

* 撮影枚数は、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- 撮影枚数は、撮影条件により少なくなることがあります。

バッテリーの残量表示

バッテリーの状態は、画面にマークやメッセージで表示されます。

画面表示	内容
	バッテリー容量は十分です。
	少し減っていますが、まだ使えます。
（赤く点滅）	まもなくバッテリー切れになります。
[バッテリーを交換してください]	バッテリー切れです。すぐに充電してください。

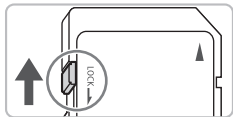
バッテリーと充電器の上手な使いかた

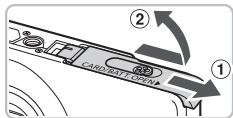
- 充電は使う前日か当日にする
  充電したバッテリーは、使わなくても自然放電によって少しずつ残量が減っていきます。

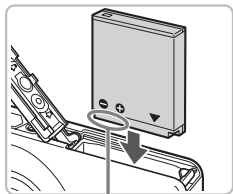
充電したバッテリーは、▲が見えるように
カバーを取り付けます。

- 長期間の保管方法
  バッテリーを使い切ってカメラから取り出し、カバーをつけて保管してください。バッテリーを使い切らずに長期間（1年くらい）保管すると、バッテリー寿命を縮めたり、性能が劣化することがあります。
- 充電器は海外でも使える
  充電器は、AC100～240V 50/60Hzの地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。海外旅行用の電子変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。
- バッテリーがふくらむ
  バッテリー特性のため安全上は問題ありません。ただし、バッテリーがふくらむことでカメラに入らなくなったときは、別紙の相談窓口へご相談ください。
- 充電したのにすぐ使えなくなる
  バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

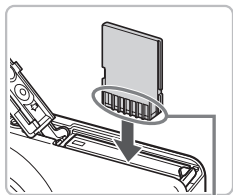
バッテリーとカードを入れる

カメラに付属のバッテリーとカードを入れます。

1 カードのスイッチを確認する

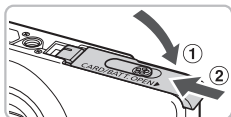
- スイッチがあるカードでは、スイッチが下（「LOCK」側）になっていると撮影できません。「カチッ」と音がするまでスイッチを上に動かします。

2 ふたを開ける

- ふたを① の方向に動かして、② の方向へ開けます。

端子部

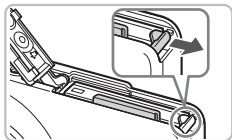
3 バッテリーを入れる

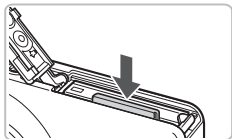
- バッテリーを図の向きにして、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。
- 間違った向きでバッテリーを入れるとロックされません。必ずバッテリーがロックされる正しい向きで入れてください。

端子部

4 カードを入れる

- カードを図の向きにして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- カードは、必ず正しい向きで入れてください。間違って入れるとカメラの故障の原因となります。

5 ふたを閉める

- ふたを①の方向にたおして、②の方向へ「カチッ」と音がするまで閉めます。

バッテリーとカードを取り出す

バッテリーを取り出す

- ふたを開け、バッテリーロックを矢印の方向に動かします。
- ▶ バッテリーが出てきます。

カードを取り出す

- 「カチッ」と音がするまでカードを押し込み、ゆっくり指を放します。
- ▶ カードが出てきます。

1枚のカードに撮影できる枚数の目安

カード	2GB	8GB
撮影枚数	749	2994

- カメラが初期状態での枚数です。
- 撮影枚数は、カメラの各種設定、被写体、カードにより変わります。

撮影できる枚数を確認するには？

カメラを撮影モード（p.22）にすると画面で確認できます。

撮影できる枚数

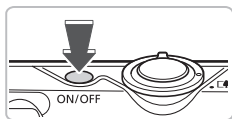
使えるカード

- SD（エスディー）メモリーカード
- SDHC（エスディーエイチシー）メモリーカード
- MultiMediaCard（マルチメディアカード）
- MMCplus（エムエムシープラス）カード
- HC MMCplus（エイチシーエムエムシープラス）カード

カードのスイッチは何のスイッチ？

SDメモリーカードとSDHCメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）というスイッチがついています。このスイッチが「LOCK」側になっていると、画面に［ライトプロテクト］と表示され、撮影することや撮った画像を消すことができません。

日付／時刻を設定する

はじめて電源を入れると、日付／時刻の設定画面が表示されます。撮影した画像には、ここで設定した日付／時刻をもとにした日時の情報が記録されます。必ず設定してください。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶［日付/時刻］画面が表示されます。

2 日付／時刻を設定する

- ◀▶を押して項目を選びます。
- ▲▼を押して、設定します。

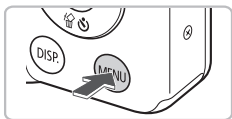
3 設定を終了する

- (FUNC./SET)を押します。
- ▶日付／時刻が設定され、［日付/時刻］画面が消えます。
- 電源ボタンを押すと、電源が切れます。

? 電源を入れるたびに［日付/時刻］画面が表示されるときは？

日付／時刻を設定しないと、電源を入れるたびに［日付/時刻］の設定画面が表示されます。正しく設定してください。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。

1 メニューを表示する

● MENUボタンを押します。

2 [ƳƮ] タブの [日付/時刻] を選ぶ

● ◀▶を押して［ƳƮ］タブを選びます。

● ▲▼を押して［日付/時刻］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 日付／時刻を変える

● p.17の手順2〜3の操作で設定します。

● MENUボタンを押して、メニュー画面を消します。

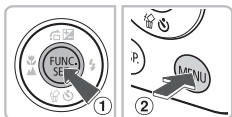
日付／時刻用電池について

- カメラには日付／時刻用電池（バックアップ電池）が内蔵されています。バッテリーを取り出してから約3週間は、設定した日付／時刻が保持されます。
- 日付／時刻用電池は、充電したバッテリーをカメラに入れるか、ACアダプターキット（別売）（p.38）を使うと、カメラの電源を入れなくても約4時間で充電されます。
- 日付／時刻用電池がなくなると、カメラの電源を入れたときに［日付/時刻］画面が表示されます。p.17の手順で正しく設定してください。

表示言語を選ぶ

画面に表示される言語を変えられます。お買い上げ時は日本語に設定されています。

1 再生モードにする

● ▶ボタンを押します。

2 設定画面を表示する

● (FUNC/SET)を押したまま①、MENUボタンを押します②。

3 言語を設定する

● ◀▶を押して言語を選び、(FUNC/SET)を押します。

▶ 表示言語が設定され、表示言語の画面が消えます。

言語設定は、MENUボタンを押すと表示されるメニュー画面で、[ꝏ] タブの［言語］を選んで設定することもできます。

カードを初期化する

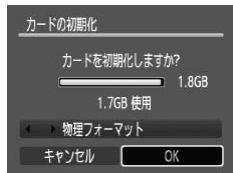
新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。
初期化するとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。十分に確認してから初期化してください。

1 メニューを表示する

● MENUボタンを押します。

2 ［カードの初期化］を選ぶ

● ◀▶を押して［ΨΥ］タブを選びます。

● ▲▼を押して［カードの初期化］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 初期化する

● ◀▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

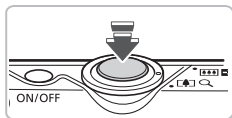
▶ カードが初期化されます。

▶ 初期化が終わるとメニューに戻ります。

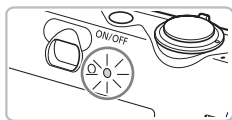
カード内のデータは初期化や消去をしても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消えません。譲渡や廃棄するときは注意してください。廃棄するときはカードを破壊するなどして、個人情報の流出を防いでください。

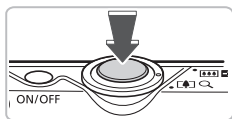
初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

シャッターボタンの押しかた

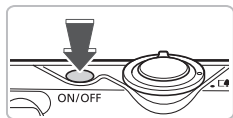
シャッターボタンは二段階で押せるようになっています。ピントが合った画像を撮るために、必ずシャッターボタンを浅く押す「半押し」をしてピントを合わせてから撮影します。

1 半押し（一段目まで浅く押す）

▶ ピント合わせや明るさなど、撮影に必要な設定が自動的に行われます。

▶ ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ランプが緑色に点灯します。

2 全押し（二段目まで深く押す）

▶ シャッター音が鳴り、撮影されます。

シャッターボタンを半押しせずに、一度に二段目まで深く押し込むと、ピントが合わない画像になることがあります。

AUTO 撮る

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。人を撮影するときは、顔を自動的に検出して顔にピントを合わせ、顔の明るさや色あいも最適になるよう設定されます。

1 電源を入れる

● 電源ボタンを押します。

▶ 起動音が鳴り、起動画面が表示されます。

● もう一度押すと電源が切れます。

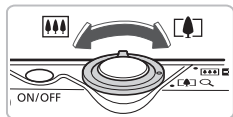
2 AUTOモードにする

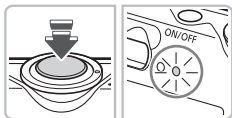
● モードスイッチをAUTOにします。

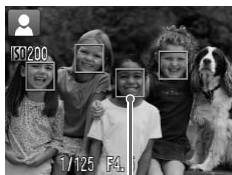
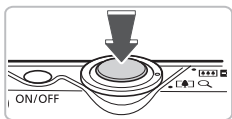
● カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。

▶ 主被写体と判断した被写体にピントを合わせ、画面の左上にカメラが判別したシーンのアイコンが表示されます。

▶ 人の顔が検出されたときは顔にピントを合わせ、主被写体と判断された顔に白のフレーム、その他の顔には灰色のフレームが表示されます。

▶ 検出された顔は動いても、一定の範囲で追尾します。

3 撮りたいものの大きさを決める

● ズームレバーを[♠]側へ押すと撮りたいものが大きくなり、[♠♠♠]側へ押すと小さくなります。

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ▶ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ランプが緑色に点灯します（ストロボ発光時はオレンジ色に点灯）。
- ▶ピントが合った位置にAF フレームが緑色で表示されます。
- ▶複数のフレームが表示されたときは、表示されたすべてのフレームにピントが合っています。

AFフレーム

5 撮影する

- シャッターボタンを全押しして、撮影します。
- ▶シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでは自動的にストロボが光ります）。
- ▶ランプ（背面）が緑色に点滅し、撮影した画像がカードに記録されます。
- ▶撮影した画像は、約2秒間表示されます。
- 画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、次の撮影ができます。

? こんなときは？

- **電源を入れても、カメラの画面が表示されない**
  DISP.ボタンを押すと画面が表示されます。
- **音が鳴らない**
  DISP.ボタンを押したまま電源を入れたため、警告音以外の音が鳴らなくなりました。音が鳴るように設定するには、MENUボタンを押して、［ﾄ］タブの［消音］を選び、◀▶を押して［切］を選びます。

- **ストロボが光ったのに暗い画像になった**
  被写体までの距離が遠すぎます。ズームレバーを[広角]側に押してもっとも広角側にしたときは、レンズ先端から約30cm～4.2m、[望遠]側へ押してもっとも望遠側にしたときは約30cm～2.4mの範囲で撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、ランプ（背面）が黄色に点滅し、電子音が「ピッ」と1回鳴る**
  撮りたいものが近すぎます。ズームレバーを[広角]側に押してもっとも広角側にしたときで約3cm以上、[望遠]側に押してもっとも望遠側にしたときは約30cm以上離れて撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、ランプ（前面）が点灯する**
  暗いところでの撮影では、目が赤く写るのを緩和したり、ピントを合わせるため、ランプが点灯することがあります。
- **撮影しようとしたら、[ストロボ]が点滅表示されて撮影できない**
  ストロボ充電中です。充電が終わると撮影できます。

シーンのアイコン

カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示され、ピント合わせや被写体の明るさ、色あいが最適になるよう自動設定されます。

背景 / 被写体	明るい		青空を含む		夕景	暗い	
		逆光		逆光			三脚使用時
人	[アイコン]	[アイコン]	[アイコン]	[アイコン]	—	[アイコン]	[アイコン]*
人以外の被写体 風景	AUTO	[アイコン]	AUTO	[アイコン]	[アイコン]	AUTO	[アイコン]*
近距離撮影	[アイコン]	[アイコン]	[アイコン]	[アイコン]	—	[アイコン]	—
アイコンの背景色	灰色		水色		オレンジ色	紺色	

＊ 撮影シーンが暗いときに、三脚などでカメラを固定すると表示されます。

> シーンによっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。特に背景がオレンジ色や青色の壁などのときは、[夕景]や「青空を含む」アイコン類が表示されて、適切な色調で撮影できないことがあります。そのときは、**P**モード（p.62）で撮影することをおすすめします。

▶ 見る

撮影した画像を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- ◀を押すと最後に撮影した画像から、新しい順に表示されます。
- ▶を押すと古い画像から順に表示されます。
- ◀▶を押したままにすると、画像が早く進みます。ただし、表示画像は粗くなります。
- レンズが出ている状態で、▶ボタンを押すと、撮影画面に戻ります。
- 約1分経過すると、レンズが収納されます。この状態で▶ボタンを押すと電源が切れます。

再生モードの切り換えについて

カメラの電源が入っていない状態で▶ボタンを押すと、電源が入り再生モードとなり、もう一度押すと電源が切れます。再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると、撮影画面になります。

消す

不要な画像を1枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 消したい画像を選ぶ

- ◀▶を押して、画像を選びます。

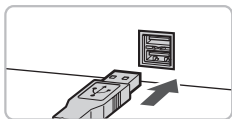
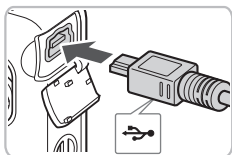
3 消す

- ▼を押します。
- ▶［消去？］が表示されます。
- ◀▶を押して［消去］を選び、FUNC. SETを押します。
- ▶ 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、◀▶を押して［キャンセル］を選び、FUNC. SETを押します。

印刷する

撮影した画像は、カメラとPictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンター（別売）をつないで、かんたんに印刷できます。

用意するもの

- カメラとPictBridge対応プリンター（別売）
- 付属のインターフェースケーブル（p.2）

1 カメラとプリンターの電源を切る

2 カメラとプリンターをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルの小さいプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルの大きいプラグをプリンターに差し込みます。プリンターとのつなぎかたについては、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 プリンターの電源を入れる

4 カメラの電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。
- ▶［ SET ］が表示されます。

5 印刷する画像を選ぶ

- ◀▶を押して、画像を選びます。

6 印刷する

- (FUNC/SET)を押します。
- ▲▼で［印刷］を選び(FUNC/SET)を押します。
- ▶印刷がはじまります。
- 別の画像を印刷するときは、印刷が終わったあと、手順5〜6の操作を繰り返します。
- 印刷が終わったらカメラとプリンターの電源を切り、ケーブルを抜きます。

印刷方法については、「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。

キヤノン製PictBridge対応プリンター（別売）のご紹介

キヤノン製の下記PictBridge対応プリンターをつなぐと、パソコンを使わずに、撮影した画像を印刷できます。

SELPHYシリーズ

PIXUSシリーズ

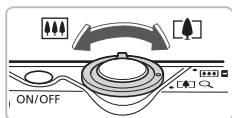
製品の詳細については、ホームページやカタログでご確認いただくか、別紙の相談窓口へお問いあわせください。

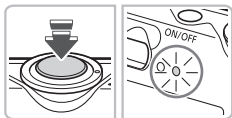
動画を撮る

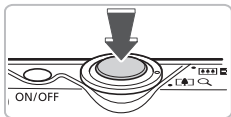
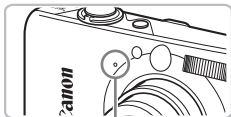
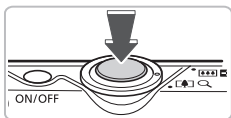
シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの動画撮影ができます。

撮影できる時間

1 モードにする

- モードスイッチをにします。

2 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを[]側へ押すと撮りたいものが大きくなり、側へ押すと小さくなります。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ▶ ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ランプが緑色に点灯します。

4 撮影する

● シャッターボタンを全押しします。

▶ 撮影がはじまり、［●録画］と撮影時間が表示されます。

● 撮影がはじまったら、シャッターボタンから指を放します。

● 撮影中に構図を変えると、ピント位置はそのままで、明るさや色あいは自動的に調整されます。

撮影時間

マイク

● 撮影中はマイクをふさがないでください。

● シャッターボタン以外を操作すると、操作音も録音されます。

5 撮影を終了する

● シャッターボタンをもう一度全押しします。

▶ 電子音が「ピッ」と1回鳴り、撮影が終わります。

▶ ランプが緑色に点滅し、撮影した動画がカードに記録されます。

▶ カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

撮影できる時間の目安

カード	2GB	8GB
撮影時間	16分00秒	1時間03分57秒

• カメラが初期状態での撮影時間です。撮影時間は、手順1の画面で確認できます。

• 一度の撮影で動画の容量が4GBになるか、撮影時間が1時間になると自動的に撮影が終わります。

動画を見る

撮影した動画を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。
- ▶ 動画には［SET 🎥］が表示されます。

2 再生する動画を選ぶ

- ◀▶を押して再生する動画を選び、FUNC/SETを押します。
- ▶ 操作パネルが表示されます。

3 再生する

- ◀▶を押して［▶］を選び、FUNC/SETを押します。
- ▶ 動画が再生されます。
- もう一度FUNC/SETを押すと、一時停止／再開できます。
- 音量は▲▼を押して調節します。
- 再生が終わると、［SET 🎥］が表示されます。

パソコンに取り込む

付属のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンへ取り込むことができます。

パソコンに必要なシステム構成

これは推奨環境であり、すべての動作を保証するものではありません。

Windows

OS	Windows Vista（Service Pack 1を含む） Windows XP Service Pack 2、Service Pack 3
機種	上記OSがプリインストールされていて、USB接続部が標準装備されていること
CPU	Pentium 1.3GHz以上
RAM	Windows Vista：1GB以上 Windows XP：512MB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	Canon Utilities • ZoomBrowser EX：200MB以上 • PhotoStitch：40MB以上
ディスプレイ	1,024×768ドット以上

Macintosh

OS	Mac OS X v10.4～v10.5
機種	上記OSがプリインストールされていて、USB接続部が標準装備されていること
CPU	PowerPC G4 / G5またはIntelプロセッサー
RAM	512MB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	Canon Utilities • ImageBrowser：300MB以上 • PhotoStitch：50MB以上
ディスプレイ	1,024×768ドット以上

用意するもの

- カメラとパソコン
- 付属のCD-ROM（DIGITAL CAMERA Solution Disk）（p.2）
- 付属のインターフェースケーブル（p.2）

準備をする

ここでは、Windows XPとMac OS X v10.4を使って説明をしています。

1 ソフトウェアをインストールする

Windows

① CD-ROMをパソコンのドライブに入れる

② インストールをはじめる

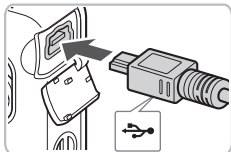
- ［おまかせインストール］をクリックし、表示される画面にしたがって操作を進めます。

③ インストールが終了したら、［再起動］または［完了］をクリックする

④ CD-ROMを取り出す

- デスクトップ画面が表示されたらCD-ROMを取り出します。

Macintosh

- CD-ROM をパソコンのドライブに入れ、CD-ROM内の［ ］をダブルクリックします。
- ▶ 左の画面が表示されます。
- ［インストール］をクリックして、表示される画面にしたがって操作を進めます。

2 カメラとパソコンをつなぐ

- カメラの電源を切ります。
- ふたを開き、ケーブルの小さいプラグを図の向きにして、カメラの端子に差し込みます。
- ケーブルの大きいプラグをパソコンのUSB接続部に差し込みます。パソコンとのつなぎかたについては、パソコンの使用説明書を参照してください。

3 電源を入れる

- ▶ボタンを押して、電源を入れます。

4 カメラウィンドウを表示する

Windows

- [Canon CameraWindow]を選び[OK]をクリックします。
- ▶ カメラウィンドウが表示されます。
- 画面が表示されないときは、[スタート] メニュー ▶ [すべてのプログラム] または [プログラム] ▶ [Canon Utilities] ▶ [CameraWindow] ▶ [CameraWindow] ▶ [CameraWindow] を選びます。

Macintosh

▶ カメラとパソコンが通信できる状態になると、カメラウィンドウが表示されます。

● カメラウィンドウが表示されないときは、Dock（デスクトップ下部に表示されるバー）の［CameraWindow］アイコンをクリックします。

画像を取り込む

● ［未転送画像を転送する］をクリックします。

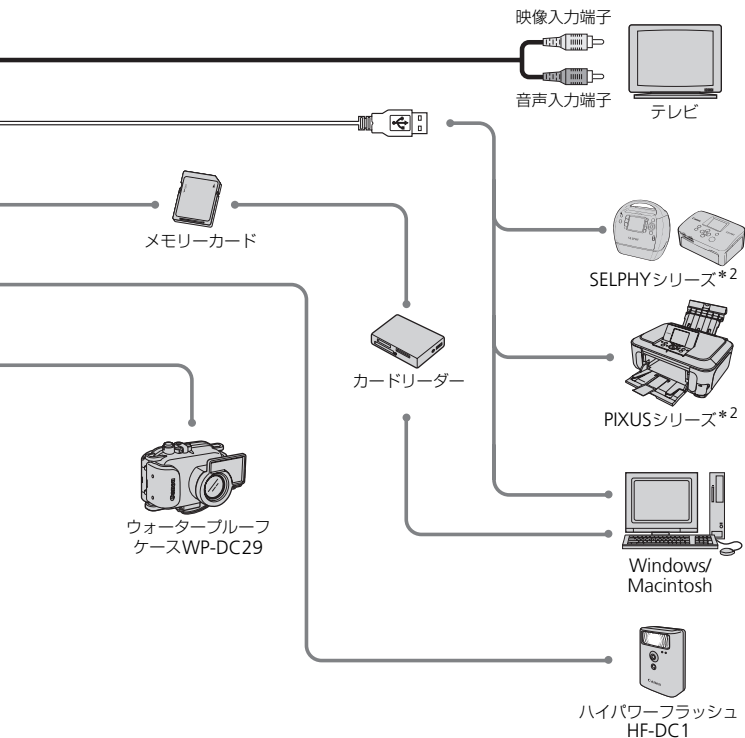
▶ パソコンに取り込まれていないすべての画像が取り込まれます。

● 取り込みが終わったら、カメラの電源を切り、ケーブルを抜きます。

● 以後の操作は、「ソフトウェアクイックガイド」（p.2）を参照してください。

パソコンに取り込まれた画像は、撮影日ごとのフォルダに分けられて、Windowsでは「マイピクチャ」フォルダに、Macintoshでは「ピクチャ」フォルダに保存されます。

アクセサリー一覧

＊1 別売も用意されています。
＊2 プリンターとカメラをつなぐケーブルについては、お使いになるプリンターの使用説明書を参照してください。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いになった場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

別売アクセサリー

必要に応じてお買い求めの上、ご利用ください。なお、アクセサリーは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。

電源

- **ACアダプターキットACK-DC40**
  家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、このACアダプターキットをお使いになることをおすすめします（カメラ内のバッテリーは充電できません）。
- **バッテリーチャージャー CB-2LY**
  バッテリーパックNB-6L用の充電器です。
- **バッテリーパックNB-6L**
  充電式のリチウムイオン電池です。

海外での使用について

バッテリー／チャージャーやAC アダプターキットは、AC100～240V 50/60Hzの地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。なお、海外旅行用の電子変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

その他

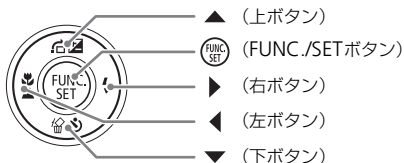
- **ソフトケースICX-280シリーズ、ICX-290シリーズ**
  カメラをキズやホコリから守ります。
- **ウォータープルーフケースWP-DC29**
  カメラに取り付けると、雨天時や海辺、スキー場での撮影のほか、水深40m以内での水中撮影を楽しめます。
- **ハイパワーフラッシュ HF-DC1**
  被写体が遠すぎて内蔵ストロボの光が届かないときに、カメラに取り付けて使用する補助ストロボです。

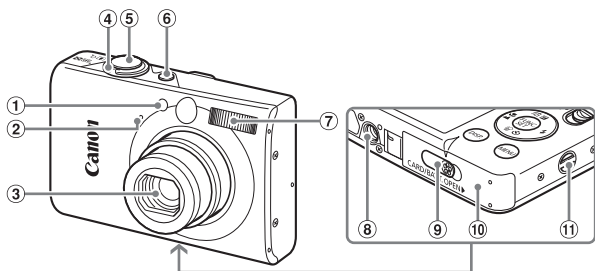
2

もっとカメラを知ってみよう

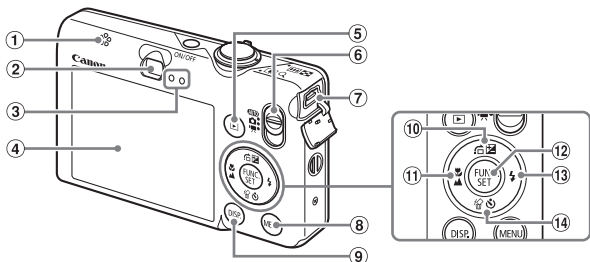
この章ではカメラの各部のなまえや画面の表示内容のほか、各種の基本的な操作方法について説明しています。

このガイドの記載について

- カメラのボタンやスイッチは、ボタンやスイッチに表記されている絵文字を使って示しています。
- 画面に表示される絵文字や文言は、［ ］つきで示しています。
- 十字キー、FUNC./SETボタンは、それぞれ以下の絵文字で示しています。

- ：困ったときに手助けとなる内容を示しています。
- ：上手に使うためのヒントを示しています。
- ：注意事項を示しています。
- ：補足説明を示しています。
- （p.xx）：参照ページを示しています。xxはページ数を示しています。
- すべての機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。

各部のなまえ

① ランプ（前面）（p.24、59、107）
② マイク（p.30）
③ レンズ
④ ズームレバー
撮影時：[♠]（望遠）／[♠♠♠]（広角）（p.22）
再生時：Q（拡大）（p.92）／▦（インデックス）（p.88）
⑤ シャッターボタン（p.21）
⑥ 電源ボタン（p.22）
⑦ ストロボ（p.55）
⑧ 三脚ねじ穴
⑨ DCカプラー端子カバー（p.112）
⑩ カード／バッテリー収納部ふた（p.14）
⑪ ストラップ取り付け部（p.11）

モードスイッチ

モードの切り換えは、モードスイッチで行います。

① スピーカー
② ファインダー（p.73）
③ ランプ（背面）
④ 画面（液晶モニター）（p.42、43）
⑤ ▶（再生）ボタン（p.25）
⑥ モードスイッチ（p.40）
⑦ A / V OUT（映像／音声出力）・DIGITAL（デジタル）端子（p.27、34、93）
⑧ MENU（メニュー）ボタン（p.46）
⑨ DISP.（ディスプレイ）ボタン（p.42、43）
⑩ ±（露出補正）（p.67）／⎙（ジャンプ）（p.89）／▲ボタン
⑪ ✿（マクロ）（p.63）／▲（遠景）（p.63）／◀ボタン
⑫ FUNC./SET（ファンクション／セット）ボタン（p.45）
⑬ ⚡（ストロボ）（p.55、62）／▶ボタン
⑭ ⏲（セルフタイマー）（p.59、60）／🗑（1画像消去）（p.26）／▼ボタン

ランプの表示

カメラ背面のランプは、シャッターボタンや撮影操作に連動して、点灯／点滅状態が変わります。

色	状態	操作状態
緑	点灯	撮影準備完了（p.22）／ディスプレイオフ時（p.44）
	点滅	カードへの記録（p.23）／読み出し、各種通信中
オレンジ	点灯	撮影準備完了（ストロボ発光時）（p.23）
	点滅	手ブレ警告（p.55）
黄	点灯	✿（p.63）、▲（p.63）、AFL（p.77）
	点滅	近距離警告（p.24）／ピントが合わない（p.114）

ランプが緑色に点滅しているときは、カードへの記録／読み出しや各種通信をしています。「電源を切る」、「カード／バッテリー収納部のふたを開ける」、「振動や衝撃を与える」ことは絶対にしないでください。画像、カメラ、カードが壊れることがあります。

画面の表示内容一覧

撮影時（情報表示あり）

① 撮影モード（p.40）
② ISO感度（p.68）
③ ホワイトバランス（p.69）
④ マイカラー（p.70）
⑤ 測光モード（p.78）
⑥ ドライブモード（p.67）
⑦ 画質（圧縮率）（p.65）／記録画素数（p.65）
⑧ スポット測光枠（p.78）
⑨ デジタルズーム倍率（p.56）、デジタルテレコンバーター（p.57）
⑩ マクロ（p.63）、遠景（p.63）
⑪ ストロボモード（p.55、62、79）
⑫ 赤目補正（p.81）
⑬ セルフタイマー（p.59、60、71、72）
⑭ カメラ位置*
⑮ バッテリー残量表示（p.13）
⑯ AFフレーム（p.23）
⑰ AFロック（p.77）
⑱ 暗部補正（p.80）
⑲ フォルダ作成（p.105）
⑳ 静止画：撮影可能枚数（p.16）
動画：撮影可能時間（p.29）
㉑ 撮影ガイド（p.109）
㉒ シャッタースピード
㉓ 絞り数値
㉔ 手ブレ補正（p.109）
㉕ 露出補正（p.67）
㉖ 撮影日時記録（p.58）
㉗ AEロック（p.78、85）、FEロック（p.79）

＊ ：通常、 ：カメラを縦位置に構えたとき
撮影時にカメラの向きを検知して最適な撮影ができるよう制御され、再生時には、カメラが縦向きでも横向きでも、画像が自動的に回転して正位置で見ることができます。
ただし、カメラを真上や真下に向けると正しく検出できないことがあります。

表示の切り換え

画面表示は、DISP.ボタンを押して切り換えます。

再生時（詳細情報表示）

① 撮影モード（p.40）
② シャッタースピード
③ 露出補正量（p.67）
④ ホワイトバランス（p.69）
⑤ ヒストグラム（p.44）
⑥ 画像編集（p.96～98）
⑦ 画質（圧縮率）（p.65）、AVI（動画）
⑧ 記録画素数（p.65）
⑨ バッテリー残量表示（p.13）
⑩ 測光モード（p.78）
⑪ フォルダ番号−画像番号（p.105）
⑫ 再生画像番号／総画像数
⑬ ISO感度（p.68）
⑭ 絞り数値、画質（動画）（p.65）
⑮ 暗部補正（p.80、97）
⑯ ストロボ発光（p.62、79）
⑰ マクロ（p.63）、遠景撮影（p.63）
⑱ ファイルサイズ
⑲ 静止画：記録画素数（p.66）
動画：撮影時間（p.84）
⑳ 保護（p.94）
㉑ マイカラー（p.70）
㉒ 赤目補正（p.81、98）
㉓ 撮影日時（p.58）

表示の切り換え

画面表示は、DISP.ボタンを押して切り換えます。

情報表示なし

簡易情報表示

詳細情報表示

ピント位置確認表示（p.91）

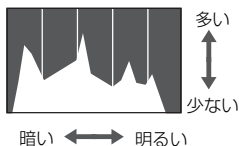
- 撮影直後の画面表示も、DISP.ボタンを押すと切り換えができます。ただし、簡易情報表示にはなりません。
- 最初に表示される画面は、MENUボタンを押して［◘］タブの［レビュー情報］で設定します。

撮影時の暗い場所での画面表示

暗い場所では、自動的に画面が明るくなって構図確認しやすくなります（ナイトビュー機能）。ただし、撮影される画像の明るさとは異なるほか、粗い感じ、またはややぎこちない表示になることがあります（記録される画像に影響はありません）。

再生時の高輝度（ハイライト）警告

「詳細情報表示」（p.43）にすると、画像上の白トビした個所が点滅表示されます。

再生時のヒストグラム

- 「詳細情報表示」（p.43）のグラフは、画像中の明るさの分布を示したヒストグラムというグラフです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの量を示しています。また、グラフが右に寄っているときは明るい画像、左に寄っているときは暗い画像となり、露出の傾向を確認できます。

節電機能（オートパワーオフ）

バッテリーの消耗を防ぐため、カメラを操作しない状態で一定の時間がたつと、自動的に画面を消したり、電源を切ったりする機能です。

撮影モードでの節電機能

約1分間カメラを操作しないと画面が消え、さらに約2分たつとレンズが収納されて電源が切れます。画面が消えた状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押し（p.21）すると画面が表示され、撮影できます。

再生モードでの節電機能

約5分間カメラを操作しないと、電源が切れます。

- 節電機能を切ることができます（p.104）。
- 画面が消えるまでの時間を変えられます（p.104）。

FUNC.メニューの基本操作

撮影時によく使う機能は、FUNC.メニューで設定できます。メニュー項目や項目は撮影モード（p.118）によって変わります。

1 撮影モードを選ぶ

- モードスイッチを目的の撮影モードにあわせます。

2 FUNC.メニューを表示する

▶ FUNC.SETを押します。

項目

メニュー項目

3 メニュー項目を選ぶ

- ▲▼を押してメニュー項目を選びます。

▶ 選んだメニュー項目の項目が、画面の下部に表示されます。

4 項目を選ぶ

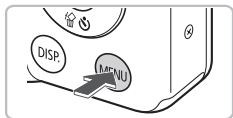
- ◀▶を押して、項目を選びます。
- DISP.が表示される項目では、DISP. ボタンを押して設定することができます。

5 設定して終了する

- FUNC.SETを押します。

▶ 撮影画面に戻り、設定した項目が画面に表示されます。

MENU メニューの基本操作

カメラの各種機能をメニューで設定できます。メニュー項目はタブで撮影［📷］や再生［▶］などの系統別に分けられています。表示される項目は、モード（p.120～123）によって変わります。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 タブを選ぶ

- ◀▶を押すかズームレバー（p.40）を左右に動かして、タブを選びます。

3 項目を選ぶ

- ▲▼を押して、項目を選びます。
- 項目を選んだあと FUNC/SET を押して画面を切り換え、設定する項目もあります。

4 内容を選ぶ

- ◀▶を押して内容を選びます。

5 設定を終了する

- MENUボタンを押します。
- 通常の画面に戻ります。

音の設定を変える

各ボタンを押したときや撮影のときに鳴る音を、鳴らないようにしたり、音量を変えたりできます。

音を鳴らさない

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［消音］を選ぶ

- ◀▶ を押して［YT］タブを選びます。
- ▲▼を押して［消音］を選び、◀▶ を押して［入］を選びます。

音量を変える

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［音量］を選ぶ

- ◀▶ を押して、［YT］タブを選びます。
- ▲▼を押して［音量］を選び、FUNC SET を押します。

3 音量を変える

- ▲▼を押して項目を選び、◀▶ を押して音量を変えます。

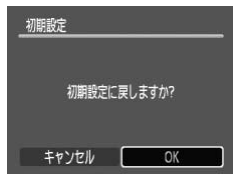
カメラの設定を初期状態に戻す

カメラの設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［初期設定］を選ぶ

- ◀▶を押して［ƳŤ］タブを選びます。
- ▲▼を押して［初期設定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 初期状態に戻す

- ◀▶を押して[OK]を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ カメラが初期状態に戻ります。

? 初期状態に戻らない機能は？

- ［ƳŤ］タブの［日付/時刻］(p.17)、［言語］(p.19)、［ビデオ出力方式］(p.93)
- マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ（p.69）

カードを物理フォーマット（初期化）する

カードへの画像記録／再生時の読み出し速度が遅くなったときなどに行います。物理フォーマットするとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。十分に確認してから物理フォーマットしてください。

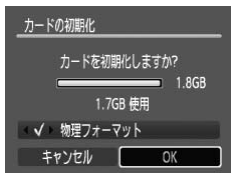
1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［カードの初期化］を選ぶ

- ◀▶を押して［🔧］タブを選びます。
- ▲▼を押して［カードの初期化］を選び、FUNC/SETを押します。

3 物理フォーマットする

- ▲▼を押して［物理フォーマット］を選び、◀▶を押して［✔］を表示します。
- ▲▼◀▶を押して［OK］を選び、FUNC/SETを押します。
- ▶ 物理フォーマットがはじまります。

物理フォーマットについて

［カードが異常です］のメッセージが表示されたときや、カメラが正しく動かないときは、物理フォーマットすると使えるようになることがあります。その際、カード内の画像をパソコンなどにコピーしてから物理フォーマットしてください。

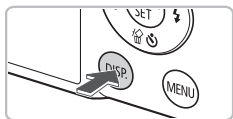
- 物理フォーマットはカード内の全記憶領域を初期化するため、通常の初期化（p.20）よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［中止］を選ぶと、初期化を中止できます。中止してもデータはすべて消去されますが、カードは問題なく使えます。

画面の明るさを変える

画面の明るさを、2種類の方法で変えられます。

メニューで変える

- MENUボタンを押して、[Ƴ†] タブの [液晶の明るさ] を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀▶を押して変えます。
- もう一度MENUボタンを押すと、設定されます。

DISP.ボタンを押して変える

- DISP.ボタンを1秒以上押します。
- ▶ 画面が最高の明るさになります（[Ƴ†] タブの設定は無視されます）。
- もう一度DISP.ボタンを1秒以上押すと、もとの明るさに戻ります。

- 次回電源を入れたときは、[Ƴ†] タブで設定されている明るさになります。
- [Ƴ†] タブの設定で最高の明るさになっているときは、DISP.ボタンを押しても明るさは変わりません。

3

いろいろなシーンや よく使う機能で撮ってみよう

この章では、シーン別での撮影方法やストロボ、セルフタイマーなど、よく使う機能について説明しています。

- モードスイッチを📷にして撮影シーンにあったモードを選ぶと、撮影に必要な設定はカメラが自動的に行います。あとは、シャッターボタンを押すだけで撮影シーンに最適な画像が撮れます。
- 「ストロボを発光させない」（p.55）～「顔セルフタイマーを使う」（p.60）は、AUTOモードになっていることを前提に説明しています。📷モードで使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.118～121)。

いろいろなシーンで撮る

撮影シーンにあったモードを選ぶと、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。

1 モードスイッチをにする（p.40）

2 撮影モードを選ぶ

- を押したあと、▲▼を押して［P］を選びます。

3 撮りたいシーンのモードを選ぶ

- ◀▶を押して項目を選び、を押します。
- 特別なシーン（p.53）で撮影するときは、［］（右端）を選んでDISP.ボタンを押したあと、◀▶を押して項目を選び、を押します。

4 撮影する

人を撮る（ポートレート）

- 人をやわらかい感じで撮影できます。

夜景と人を明るく撮る（ナイトスナップ）

- 夜景や、夜景の中の人をきれいに撮影できます。
- カメラをしっかりと構えれば、三脚がなくても手ブレを軽減して撮影できます。

子供やペットを撮る（キッズ&ペット）

- 子供やペットなど動きまわる被写体でも、シャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

室内で撮る（パーティ／室内）

- 室内でのイベントやパーティなどの1コマを、自然な色あいで撮影できます。

特別なシーン

夕焼けを撮る（夕焼け）

- 夕焼けを色鮮やかに撮影できます。

花火を撮る（打上げ花火）

- 打上げ花火を色鮮やかに撮影できます。

砂浜で人を撮る（ビーチ）

- 太陽の光の反射が強い砂浜で、人を明るく撮影できます。

水中で撮る（水中）

- 水中では、ウォータープルーフケースWP-DC29（別売）を使って撮影できます。

水槽の中の生き物を撮る（水族館）

- 水族館などの水槽の中にいる生き物を、自然な色あいで撮影できます。

木々や葉を色鮮やかに撮る（新緑／紅葉）

- 新緑や紅葉、桜など自然の木々や葉を、色鮮やかに撮影できます。

雪景色で人を撮る（スノー）

- 雪景色を背景に、人を明るく自然な色あいで撮影できます。

高感度で撮る（ISO3200）

- ISO感度が3200に設定されてシャッタースピードが速くなるため、暗い場所でも手ブレや被写体ブレをおさえて撮影できます。
- 記録画素数は［M3］（1600×1200画素）に固定されます（p.65）。

- [] [] [] [] [] では、撮影シーンによってはISO感度 (p.68) が高くなるため、画像が粗くなることがあります。
- [] では手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、[手ブレ補正] を [切] にして撮影することをおすすめします (p.109)。
- [] では画像が粗くなります。

ストロボを発光させない

ストロボを発光させないで撮影することができます。

1 ▶を押す

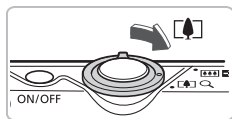
2 [] を選ぶ

- ◀▶を押して [] を選び、を押します。
- ▶ 画面に [] が表示されます。
- 戻すときは上記の操作で [^{A}] を選びます。

ランプがオレンジ色に点滅し、[] が点滅表示したときは？

手ブレしやすい暗い場所では、シャッターボタンを半押ししたときにランプ (背面) がオレンジ色に点滅し、画面に [] が点滅表示されます。カメラが動かないように、三脚などでカメラを固定してください。

被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）

光学ズーム（p.22）で被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大12倍相当まで拡大できます。ただし、設定した記録画素数（p.65）とデジタルズームの倍率によっては画像が粗くなることがあります。

1 ズームレバーを[♠]側へ押す

- ズームできるところまでレバーを押したままにします。
- ▶ レバーを放すと、画像が粗くならない最大倍率と［◆|◆］が表示されます。

2 もう一度[♠]側へ押す

- ▶ デジタルズームで被写体がさらに拡大されます。

デジタルズームで画像が粗くなる領域

記録画素数	光学ズーム	デジタルズーム
L	3.0x →	
M1	3.0x →	
M2		4.2x →
M3		6.8x →
S		12x →

□ ■：画像が粗くならない領域／ズーム倍率は白で表示

■：画像が粗くなる領域／ズーム倍率は青色で表示

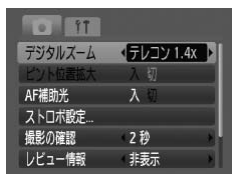
→：画像が粗くならない最大倍率（セーフティーズーム）

デジタルズームを切る

デジタルズームを使わないようにするには、MENUボタンを押して、［●］タブの［デジタルズーム］を選び、［切］を選びます。

デジタルズーム時の焦点距離は、35～420mm相当です（35mmフィルム換算）。

🅃 デジタルテレコンバーター

レンズの焦点距離を1.4倍／2.3倍相当にできます。ズーム操作（デジタルズーム含む）で同じ倍率に拡大したときよりも、シャッタースピードが速くなるため手ブレを軽減できます。
ただし、設定した記録画素数（p.65）とテレコンバーターの組みあわせによっては、画像が粗くなることがあります。

1 ［デジタルズーム］を選ぶ

- MENUボタンを押します。
- ◀▶を押して［📷］タブを選び、▲▼を押して［デジタルズーム］を選びます。

2 設定する

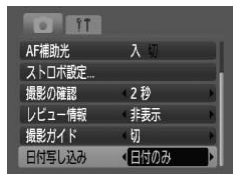
- ◀▶を押して、［テレコン1.4x］か［テレコン2.3x］を選びます。
- MENUボタンを押して撮影画面に戻ります。
- ▶ 画面が拡大表示されて、［🅃］と倍率が表示されます。
- 戻すときは［デジタルズーム］で［入］を選びます。

画像が粗くなる記録画素数との組みあわせ

- ［テレコン1.4x］、記録画素数が［ L ］［M1］のときは、［🅃］と倍率が青色で表示され、画像が粗くなります。
- ［テレコン2.3x］、記録画素数が［ L ］［M1］［M2］のときは、［🅃］と倍率が青色で表示され、画像が粗くなります。

- 1.4倍／2.3倍時の焦点距離はそれぞれ49.0～147.0mm／80.5～241.5mm相当です（35mmフィルム換算）。
- デジタルズームとは一緒に使えません。

日時を入れる

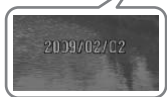
画像の右下に撮影日時を記録できます。ただし、記録された撮影日時は画像から消せません。あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください（p.17）。

1 ［日付写し込み］を選ぶ

- MENUボタンを押します。
- ◀▶を押して［📷］を選び、▲▼を押して［日付写し込み］を選びます。

2 設定する

- ◀▶を押して［日付のみ］か［日付＋時刻］を選びます。
- MENUボタンを押して撮影画面に戻ります。
- ▶［日付］が表示されます。

3 撮影する

- ▶撮影した画像の右下に、日時が記録されます。
- 戻すときは、手順2の操作で［切］を選びます。

日時を入れずに撮った画像に日時を入れて印刷するには

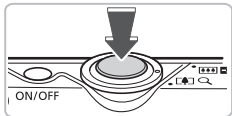
- **印刷指定（DPOF）機能を使って印刷する（p.99）**
- **付属のソフトウェアを使って印刷する**
  「ソフトウェアクイックガイド」（p.2）を参照してください。
- **カメラとプリンターをつないで印刷する**
  「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。

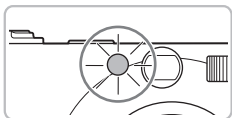
セルフタイマーを使う

集合写真など撮影する人も一緒に写るときは、シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されるセルフタイマーを使って撮影します。

1 ▼を押す

2 [ ] を選ぶ

- ▲▼を押して[ ]を選び、( )を押します。
- ▶ 設定されると［ ］が表示されます。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ▶ タイマーがはじまるとランプ（前面）が点滅して、電子音が鳴ります。
- ▶ 撮影の2秒前にランプ（前面）の点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。
- 戻すときは、手順 2 の操作で［ ］を選びます。

タイマーの時間と撮影する枚数を変えられます（p.72）。

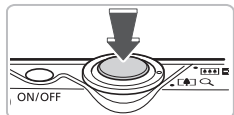
顔セルフタイマーを使う

集合写真などで、構図を決めてシャッターボタンを押したあと、シャッターボタンを押した人が構図に入って顔が検出（p.76）されると、約2秒後に3枚連続で撮影されます。

1 [ ] を選ぶ

- p.59の手順2の操作で［ ］を選びます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- ピントの合った顔には緑色、それ以外の顔には白の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

- ▶ 撮影準備に入り［顔が増えたら撮影します］が表示されます。
- ▶ ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

4 一緒に写る人が構図に入りカメラに顔を向ける

- ▶ 新しい顔が検出されると、ランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなり、約2秒後に撮影されます。
- ▶ 引き続き、2枚目、3枚目が撮影されます。
- 戻すときは、p.59の手順2の操作で［ ］を選びます。

顔が検出できないときは？

一緒に写る人が構図に入っても顔を検出できないときは、約30秒後に撮影されます。

撮影枚数を変える

手順1の画面で**MENU**ボタンを押したあと、◀▶を押して枚数を変え、(FUNC/SET)を押すと設定されます。

4

目的の設定にして撮ってみよう

この章では、**P**モードのいろいろな機能を使って、一歩進んだ撮影をする方法について説明しています。

- モードスイッチが◘で、**P**モードになっていることを前提に説明しています。
- **P**は、Program AE（プログラムエーイー）の略です。
- この章で説明する機能を**P**モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.118～121）。

P プログラムAEで撮る

いろいろな機能を自分好みに設定して撮影できます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 モードスイッチを◼にする（p.40）

- ［P］が表示されます。
- ［P］以外になっている場合は、(FUNC/SET)を押して撮影モードを選び、◀▶を押して［P］を選んだあと、(FUNC/SET)を押します。

2 目的に応じて各機能を設定する（p.62〜72）

3 撮影する

? シャッタースピードと絞り数値が赤字で表示されたときは？

シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値が赤字で表示されます。以下の設定で、適正露出が得られることがあります。

- ストロボを発光させる
- ISO感度を高くする（p.68）

⚡ ストロボを発光させる

ストロボを常に発光させて撮影できます。ストロボ撮影できる範囲は、ズームレバーを[W]側に押してもっとも広角側にしたときで約30cm〜4.2m、[T]側に押してもっとも望遠側にしたときで約30cm〜2.4mです。

［⚡］を選ぶ

- ▶を押したあと、◀▶を押して［⚡］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると、［⚡］が表示されます。

▲ 遠くの被写体を撮る（遠景）

風景や離れている被写体を撮影することができます。撮影できる範囲は、カメラから約3m以上です。

［▲］を選ぶ

- ◀を押したあと、◀▶を押して［▲］を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 設定されると、［▲］が表示されます。

🌷 近くの被写体を撮る（マクロ撮影）

近くの被写体を撮影したり、被写体に近づいて撮影したりできます。撮影できる範囲は、ズームレバーを[W]側に押してもっとも広角側にしたときでレンズ先端から約3～50cm、[T]側に押してもっとも望遠側にしたときで約30～50cmです。

［🌷］を選ぶ

- ◀を押したあと、◀▶を押して［🌷］を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 設定されると、［🌷］が表示されます。

［セルフタイマー2秒］を使う

手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、［セルフタイマー2秒］で撮影することをおすすめします（p.71）。

> ストロボが発光すると、画像の周辺部が暗くなることがあります。

近くの被写体を拡大して撮る（デジタルマクロ）

被写体に近づき、拡大して撮影できます。撮影できる範囲は、レンズ先端から約3〜10cmですが、デジタルズームを使うことでさらに被写体を拡大して撮影ができます。
ただし、デジタルズームを使うと、記録画素数（p.65）によっては画像が粗くなることがあります。

1 [ ] を選ぶ

- モードスイッチを にして、 を押します。
- ▲▼を押して［P］を選びます。
- ◀▶を押して［ ］（右端）を選び、DISP.ボタンを押します。
- ◀▶を押して［ ］を選び、 を押します。
- ▶ 光学ズーム位置はもっとも広角に固定されます。

2 ズームレバーで画角を決める

- ▶ 拡大されて、ズーム倍率が表示されます。

デジタルズームで画像が粗くならない／なる領域

- ズーム倍率が白で表示されるときは、画像は粗くなりません。
- ズーム倍率が青色で表示されるときは、画像が粗くなります。

［ ］を使う

手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、［ ］で撮影することをおすすめします（p.71）。

記録画素数（画像の大きさ）を変える

画像の記録画素数を6種類から選べます。

1 記録画素数を選べ

● FUNC.SETを押したあと、▲▼を押して［ L］を選びます。

2 項目を選ぶ

● ◀▶を押して項目を選び、FUNC.SETを押します。
▶ 設定した項目が表示されます。

［W］では、デジタルズーム（p.56）、デジタルテレコンバーター（p.57）は使えません。

画質（圧縮率）を変える

画質を2種類から選べます。高画質から順に［ ］（ファイン）、［ ］（ノーマル）となります。

1 記録画素数を選ぶ

● FUNC.SETを押したあと、▲▼を押して［ L］を選びます。

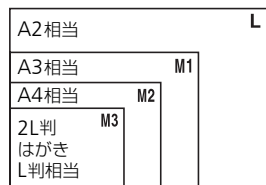
2 画質を変える

● DISP.ボタンを押します。
● ◀▶を押して項目を選び、FUNC.SETを押します。
▶ 設定した項目が表示されます。

記録画素数と画質を選ぶときの目安

記録画素数（ピクセル）	画質	1画像の容量（約・KB）	撮影できる枚数	
			2GB	8GB
L（ラージ） 10M/3648×2736		2565	749	2994
		1226	1536	6140
M1（ミドル1） 6M/2816×2112		1620	1181	4723
		780	2363	9446
M2（ミドル2） 4M/2272×1704		1116	1707	6822
		556	3235	12927
M3（ミドル3） 2M/1600×1200		558	3235	12927
		278	6146	24562
S（スモール） 0.3M/640×480		150	10245	40937
		84	15368	61406
W（ワイド） 3648×2048		1920	1007	4026
		918	2048	8187

- 表内の数値は当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。

用紙の大きさで選ぶときの目安

- ［S］は、電子メールで画像を送るときなどに適しています。
- ［W］はワイドサイズ用紙用です。

明るさを変える（露出補正）

カメラが決めた標準的な露出を、1/3段ずつ、±2段の範囲で補正できます。

露出を補正する

- ▲を押したあと、◀▶を押して露出を補正し、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した補正量が表示されます。

連続して撮る

一定の間隔（約1.4枚/秒）で連続撮影できます。

1 ドライブモードを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲▼を押して［□］を選びます。

2 ［連続撮影］を選ぶ

- ◀▶を押して［連続撮影］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると［連続撮影］が表示されます。

3 撮影する

- ▶ シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

- セルフタイマー（p.59、60、71、72）とは一緒に使えません。
- 連続撮影中は、シャッターボタンを半押ししたときのピント位置と露出に固定されます。
- 撮影枚数が多くなると、撮影間隔が長くなることがあります。
- ストロボが発光するときは、撮影間隔が長くなります。

ISO感度を変える

1 ISO感度を選ぶ

● [FUNC./SET]を押したあと、▲▼を押して［ISO AUTO］を選びます。

2 項目を選ぶ

● ◀▶を押して項目を選び、[FUNC./SET]を押します。

▶ 設定した項目が表示されます。

ISO AUTO	撮影モードと撮影シーンに応じて自動設定。	
ISO 80 ISO 100 ISO 200	低い	晴天の屋外
ISO 400 ISO 800	↕	曇り空、夕方
ISO 1600	高い	夜景、暗い室内

ISO感度を変えるときの目安

- ISO感度を低くすると、粗さが目立たない画像になりますが、撮影シーンによっては手ブレがおきやすくなることがあります。
- ISO感度を高くすると、シャッタースピードが速くなるため、被写体ブレや手ブレが軽減されたり、ストロボの光が遠くの被写体まで届くようになりますが、画像が粗くなります。

- ［ISO AUTO］では、シャッターボタンを半押しすると、自動設定されたISO感度が画面に表示されます。
- より高感度なISO3200に設定することもできます（p.54）。

色あいを調整する（ホワイトバランス）

ホワイトバランス（WB）は、自然な色あいにする機能です。

1 ホワイトバランスを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲▼を押して［AWB］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀▶を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

AWB	オート	撮影シーンに応じて自動設定
太陽光アイコン	太陽光	晴天の屋外
くもりアイコン	くもり	曇り空や日陰、薄暮
電球アイコン	電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯
蛍光灯アイコン	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯
蛍光灯Hアイコン	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3波長型）の蛍光灯
マニュアルアイコン	マニュアル	手動設定

マニュアルホワイトバランス

撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを変えて、撮影時の光源に適した色あいで撮影できます。撮影場所の光源のもとで設定してください。

- 上記の手順2の操作で［マニュアルアイコン］を選びます。
- 画面いっぱいに白い無地の被写体が入るようにして、DISP.ボタンを押します。
- ▶ 白データが取り込まれて設定されると、画面の色あいが変わります。

画像の色調を変える（マイカラー）

通常の撮影画像とは違った印象の画像にしたり、セピア調や白黒画像に変えたりできます。

1 マイカラーを選ぶ

- FUNC.SETを押したあと、▲▼を押して［OFF］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀▶を押して項目を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

OFF マイカラー切	—
V くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした印象の色調になります。
N すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりとした印象の色調になります。
Se セピア	セピア調になります。
BW 白黒	白黒になります。
C カスタムカラー	画像の色調を自分好みに設定できます。

［Se］［BW］では、ホワイトバランス（p.69）は設定できません。

C カスタムカラー

画像のコントラスト（明暗差）、シャープネス（先鋭度）、色の濃さを、それぞれ5段階から選んで設定できます。

- 上記の手順2の操作で［C］を選び、DISP.ボタンを押します。
- ▲▼を押して項目を選び、◀▶を押して値を設定します。
- 設定値が右側に行くほど強く／濃くなり、左に行くほど弱く／薄くなります。
- DISP.ボタンを押すと、設定されます。

テレビを使って撮る

カメラの画面表示をテレビに表示して撮影できます。

- 「テレビで見る」（p.93）の手順でカメラとテレビをつなぎます。
- 撮影操作は、カメラの画面を使ったときと同じです。

2秒のセルフタイマーで撮る

セルフタイマーの時間を、約2秒にすることができます。

［ ］を選ぶ

- ▼を押したあと、▲▼を押して［ ］を選び、 を押します。
- ▶設定されると［ ］が表示されます。
- p.59の手順3の操作で撮影します。

セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える

撮影されるまでのタイマー時間（0～30秒）と、撮影枚数（1～10枚）を設定できます。

1 ［］を選ぶ

- ▼を押したあと、▲▼を押して［］を選び、すぐにMENUボタンを押します。

2 設定する

- ▲▼を押して［時間］または［枚数］を選びます。
- ◀▶を押して数値を選び、(FUNC./SET)を押します。
- p.59の手順3の操作で撮影します。

? 撮影枚数を2枚以上にしたときは？

- 露出やホワイトバランスは、1枚目の撮影で固定されます。
- タイマー時間を2秒以上にしたときは、撮影の2秒前にランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。

- ストロボが発光するときは、撮影間隔が長くなります。
- 撮影枚数を多くすると、撮影間隔が長くなることがあります。
- カードの容量がいっぱいになると、自動的に撮影を終了します。

構図を変えて撮る（フォーカスロック撮影）

シャッターボタンを半押ししている間はピントと露出が固定され、そのまま構図を変えて撮影できます。これをフォーカスロック撮影といいます。

1 ピントを合わせる

- 撮りたいものを画面の中央にして、シャッターボタンを半押しします。
- AFフレームが、被写体に緑色で表示されていることを確認します。

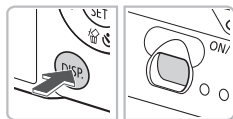
2 構図を変える

- シャッターボタンを半押ししたまま、構図を変えます。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。

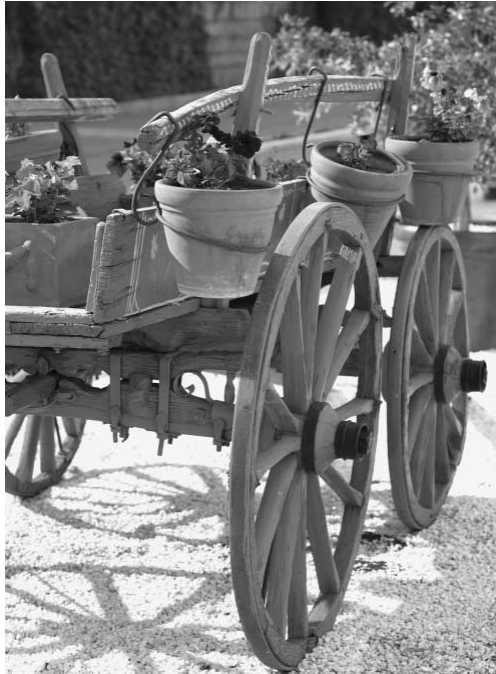
ファインダーで撮る

バッテリーの消費を抑えて撮影したいときなどは、ファインダーを使って撮影します。撮影操作は、液晶モニターを使ったときと同じです。ピントはカメラが自動で被写体に合わせます（顔を検出してのピント合わせは行われません）。

1 画面の表示を消す（p.42）

- DISP.ボタンを押して画面を非表示にします。

2 構図を決めて撮影する

- ファインダーをのぞき、構図を決めて撮影します。

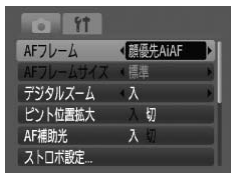
> ファインダーで見える範囲と撮影した画像は、多少ズレることがあります。

5

もっとカメラを使いこなそう

この章では4章の応用編として、さらに多くの機能を使った撮影方法について説明しています。

- モードスイッチが📷で、**P**モードになっていることを前提に説明しています。
- 「☆ 長秒時露光で撮る」(p.82)は、モードスイッチを📷にして、☆モードを選んだときの説明をしています。
- この章で説明する機能を**P**モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください(p.118〜121)。

AFフレームモードを変える

撮影シーンにあわせて、AF(自動ピント合わせ)フレームモードを変えられます。

[AFフレーム] を選ぶ

- MENUボタンを押して、[■] タブの [AFフレーム] を選び、◀▶を押して内容を選びます。

顔優先AiAF

- 人の顔を検出して、ピント、露出（評価測光時のみ)、ホワイトバランス（[AWB]時のみ）を合わせます。
- カメラを被写体に向けると、主被写体と判断した顔に白のフレーム、他の顔には最大2つの灰色のフレームが表示されます。そのままシャッターボタンを半押しすると、ピントが合った顔には緑色のフレーム(最大9個)が表示されます。

- 顔が検出されないときや、白のフレームが表示されず灰色のフレームのみが表示されたときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合った位置に緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。
- 顔として検出できない例
  - 被写体までの距離が遠い、または極端に近い。
  - 被写体が暗い、または明るい。
  - 顔が横や斜めを向いている、または一部が隠れている。
- 人の顔以外を、誤って検出することがあります。
- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、AF フレームは表示されません。

中央

AFフレームが中央1点になります。確実なピント合わせに有効です。

AFフレームを小さくする

- MENUボタンを押して、[■] タブの [AFフレームサイズ] で [小] を選びます。
- デジタルズーム（p.56）やデジタルテレコン（p.57）使用時は、[標準] に設定されます。

シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、AFフレームは黄色で表示されます。

AFL AFロックで撮る

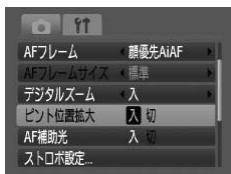
ピントを固定できます。固定後はシャッターボタンから指を放しても、ピント位置は固定されたままになります。

1 ピントを合わせて固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま、◀を押します。
- ▶ ピントが固定され、[AFL] が表示されます。
- シャッターボタンから指を放して、もう一度◀を押すと、[AFL] が消え解除されます。

2 構図を決めて撮影する

ピント位置を拡大表示する

シャッターボタンを半押ししたときに、AFフレームの位置を拡大表示してピントを確認することができます。

1 ［ピント位置拡大］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［ピント位置拡大］を選び、◀▶を押して［入］を選びます。

2 ピントを確認する

- シャッターボタンを半押しします。
- ▶ ［顔優先AiAF］（p.76）では、主被写体として検出された顔が拡大表示されます。
- ▶ ［中央］（p.76）では、中央のAFフレームが拡大表示されます。

- ［顔優先AiAF］で、顔が検出できない（p.76）ときや、顔が画面に対して大きいとき、［中央］でピントが合わないときは拡大表示されません。
- デジタルズーム（p.56）、デジタルテレコンバーター（p.57）、テレビに表示しているとき（p.71）は拡大表示されません。

測光モードを変える

撮影シーンにあわせて、測光モード（明るさを測る特性）を変えられます。

1 測光モードを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲▼を押して［(評価測光)］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀▶を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

(評価測光)	評価測光	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じて、被写体が常に適正露出になるように自動補正します。
(中央部重点平均測光)	中央部重点平均測光	画面中央部に重点をおいて、画面全体を平均的に測光します。
(スポット測光)	スポット測光	画面中央に表示される［[　]］（スポット測光枠）の範囲のみを測光します。

AEL AEロックで撮る

露出を固定して撮影できます。ピントと露出を個別に設定できます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略です。

1 露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、▲を押します。
- ▶［AEL］が表示され、露出が固定されます。
- シャッターボタンから指を放してもう一度▲を押すと、［AEL］が消え解除されます。

2 構図を決めて撮影する

FEL FEロックで撮る

ストロボ撮影時の露出を、AEロック撮影（p.78）と同様に固定できます。FEは、Flash Exposure（フラッシュエクスポージャー）の略です。

1 ［⚡］を選ぶ（p.62）

2 ストロボ露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、▲を押します。
- ▶ストロボが発光し、［FEL］が表示され、ストロボ発光量が記憶されます。
- シャッターボタンから指を放してもう一度▲を押すと、［FEL］が消え解除されます。

3 構図を決めて撮影する

スローシンクロで撮る

人などの主被写体は、ストロボが発光することで明るく撮影され、ストロボの光が届かない背景は、シャッタースピードを遅くすることで暗くなるのを軽減することができます。

［スローシンクロ］を選ぶ

- ▶を押したあと、◀▶を押して［スローシンクロ］を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶設定されると、［スローシンクロ］が表示されます。
- ストロボが光っても、シャッター音が鳴り終わるまでは主被写体が動かないようにしてください。

> 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.109）。

暗い被写体を明るくして撮る（暗部補正）

撮影シーンにより人の顔や被写体が暗くなるときは、人の顔や暗い部分を検出し、明るくなるよう自動補正して撮影することができます。

［暗部補正］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［］タブの［暗部補正］を選び、◀▶を押して［自動］を選びます。
- ▶ 画面に［］が表示されます（p.42）。

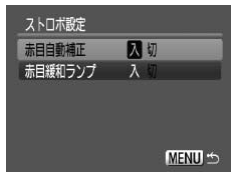
撮影シーンによっては画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。

撮影した画像を補正することもできます（p.97）。

◎ 赤目自動補正

ストロボ撮影時に目が赤く写る現象を、自動補正して撮影できます。

1 ［ストロボ設定］を選ぶ

● MENU ボタンを押して［📷］タブの［ストロボ設定］を選び、(FUNC. SET)を押します。

2 設定する

● ▲▼を押して［赤目自動補正］を選び、◀▶を押して［入］を選びます。
▶ 画面に［◎］が表示されます（p.42）。

化粧などで目の周りが赤いときは、目以外を補正することがあります。

- 撮影した画像を補正することもできます（p.98）。
- 手順2の画面は▶を押してからMENUボタンを押して表示させることもできます。

★☽ 長秒時露光で撮る

シャッタースピードを1～15秒の範囲に設定して、長秒時露光撮影ができます。なお、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定して撮影します。

1 [★☽] を選ぶ

- モードスイッチを📷にして、(FUNC. SET)を押します。
- ▲▼を押して［P］を選びます。
- ◀▶を押して［🌅］（右端）を選び、DISP.ボタンを押します。
- ◀▶を押して［★☽］を選び、(FUNC. SET)を押します。

2 シャッタースピードを選ぶ

- ▲を押したあと、◀▶を押してシャッタースピードを選び、(FUNC. SET)を押します。

3 露出を確認する

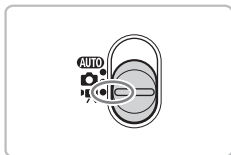
- シャッターボタンを半押しすると、選んだシャッタースピードの露出で画面が表示されます。

- 手順3でシャッターボタンを半押ししたときの画面の明るさは、撮影される画像と異なることがあります。
- シャッタースピードが1.3秒以上のときは、撮影後にノイズ軽減処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- 三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.109）。

ストロボが発光すると、白トビした画像になることがあります。そのときは、ストロボを［⚡］にして撮影します。

6

動画のいろいろな機能を使ってみよう

この章では、1章の「🎥 動画を撮る」「動画を見る」の応用編として、さらにいろいろな機能を使って動画を撮る、見る方法について説明しています。

- モードスイッチが🎥になっていることを前提に説明しています。

画質を変える

3種類の画質から選べます。

1 画質を選ぶ

- FUNC.SETを押したあと、▲▼を押して［640］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀▶を押して項目を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

画質の一覧

画質（記録画素数／フレーム数）	内容
640 640×480画素／30フレーム/秒	標準的な動画です。
640LP 640×480画素／30フレーム/秒LP	640 より画質は粗くなりますが、撮影時間を約2倍にできます。
320 320×240画素／30フレーム/秒	640 より記録画素数が小さくなるため、画質は粗くなりますが、撮影時間を約3倍にできます。

撮影時間の目安

画質	撮影時間	
	2GB	8GB
640	16分00秒	1時間03分57秒
640LP	30分07秒	2時間00分23秒
320	40分58秒	2時間43分44秒

- 当社測定条件によるものです。
- 一度の撮影で動画の容量が4GBになるか、撮影時間が1時間になると自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、最長撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス4以上のカードを使用することをおすすめします。

AEロック／露出シフト

露出を固定したり、露出を1/3段ずつ、±2段の範囲で変えられます。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

2 露出を固定する

- ▲を押すと露出が固定され、露出シフトバーが表示されます。
- もう一度▲を押すと解除されます。

3 露出を変える

- 画面を見ながら、◀▶を押して露出を変えます。

4 撮影する

その他の撮影機能の操作方法

以下の機能を静止画と同じ操作方法で使えます。

- **被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）（p.56）**
  撮影中にデジタルズームを使えますが、光学ズームは動作しません。そのため、最大倍率で撮りたいときは、撮影前に光学ズームを最大倍率にしておきます。撮影中のズーム操作音は記録されます。
- **セルフタイマーを使う（p.59）**
- **近くの被写体を撮る（マクロ撮影）（p.63）**
- **▲ 遠くの被写体を撮る（遠景）（p.63）**
- **色あいを調整する（ホワイトバランス）（p.69）**
- **画像の色調を変える（マイカラー）（p.70）**
- **2秒のセルフタイマーで撮る（p.71）**
- **テレビを使って撮る（p.71）**
- **AFL AFロックで撮る（p.77）**
- **AF補助光（ランプ）を切る（p.107）**
- **ガイドを表示する（p.109）**
  ［3:2ガイド］は使えません。
- **手ブレ補正の設定を変える（p.109）**
  ［入］、［切］の切り換えができます。

再生機能の操作方法

以下の機能は、静止画と同じ操作方法で使えます。

- 消す（p.26）
- 9枚表示で画像を探す（インデックス表示）（p.88）
- ジャンプ表示で画像を探す（p.89）
- スライドショーで見る（p.90）
- 画像を切り換えたときの効果を変える（p.92）
- テレビで見る（p.93）
- 保護する（p.94）
- まとめて消す（p.95）
- 回転する（p.95）

「動画を見る」（p.31）で表示される操作パネル一覧

	終了
▶	再生
	スロー再生（◀▶で再生速度を変更。音声は再生されません）
	先頭フレームを表示
	フレーム戻し（を押し続けると早戻し）
	フレーム送り（を押し続けると早送り）
	最終フレームを表示
	PictBridge対応プリンターとつないだとき（p.27）に表示。 「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。

7

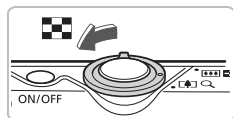
いろいろな再生とその他の機能を使ってみよう

章の前半では、いろいろな画像の再生方法や編集方法について説明しています。章の後半では、印刷する画像の指定方法を説明しています。

- ▶ボタンを押して、再生モードにしてから操作してください。

- パソコンで編集したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、再生や編集ができないことがあります。
- 編集機能（p.96～98）は、カードに空き容量がないと使えません。

9枚表示で画像を探す（インデックス表示）

画像を9枚単位で表示して、目的の画像を素早く探せます。

1 ズームレバーを側へ押す

▶ インデックス表示になります。選ばれている画像は、緑色の枠がついて拡大表示されます。

2 画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して、画像を選びます。
- ズームレバーをQ側へ押すと、選ばれている画像が1枚表示になります。

9枚単位で探す

ジャンプバー

1 ズームレバーを側へ押す

▶ インデックス表示になります。

2 もう一度ズームレバーを側へ押す

▶ ジャンプバーが表示されます。

3 表示画像を切り換える

- ◀▶ を押すと、9 枚単位で画像が切り換わります。
- ズームレバーをQ側へ押すと、インデックス表示に戻ります。

ジャンプバーが表示されている状態で(FUNC SET)を押しながら◀▶を押すと、最初または最後の画像に切り換わります。

ジャンプ表示で画像を探す

カード内に多くの画像があるときは、指定した単位で画像をとばせます。

現在再生中の画像の位置

1 ジャンプ方法を選ぶ

- 1枚表示の状態で▲を押します。
- ▶ 画面下部にジャンプ方法と、現在再生している画像の位置が表示されます。
- ▲▼を押して目的のジャンプ方法を選びます。

2 画像を送る

- ◀▶ を押します。
- ▶ 選んだ方法でジャンプ表示されます。
- 1枚表示に戻すときは、MENUボタンを押します。

	10枚ジャンプ	画像を10枚ずつとばして表示
	100枚ジャンプ	画像を100枚ずつとばして表示
	日付ジャンプ	各撮影日の先頭画像を表示
	動画ジャンプ	動画のみ表示
	フォルダジャンプ	各フォルダの先頭画像を表示

- ［ ］［ ］以外は、ジャンプ方法と一致する画像枚数が画面右側に表示されます。
- 目的のジャンプ方法と一致する画像がないときは、◀▶ を押しても機能しません。

スライドショーで見る

カードに記録されている画像を自動的に再生します。1画像の表示時間は約3秒です。

1 ［スライドショー］を選ぶ

● MENUボタンを押して、［▶］タブの［スライドショー］を選び、(FUNC./SET)を押します。

2 再生効果を選びスライドショーをはじめる

● ◀▶を押して再生効果を選び、(FUNC./SET)を押します。

▶［画像読み込み中］が数秒間表示されたあと、スライドショーがはじまります。

● もう一度(FUNC./SET)を押すと、一時停止／再開ができます。

● MENUボタンを押すと、終了します。

	効果なしで画像が表示されます。
	次の画像が徐々に表示されます。
	表示している画像が左に送られて、次の画像が表示されます。

- 再生中に◀▶を押すと、画像を切り換えられ、◀▶を押したままにすると早送りできます。
- スライドショー中に節電機能は働きません（p.44）。

ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）

撮影時にピント合わせをしたAFフレームの位置や、顔を検出して撮影された顔の部分を、拡大表示することができます。

1 DISP.ボタンを押して、ピント位置確認表示にする（p.43）

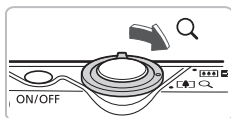
- ▶ 撮影時にピント合わせを行ったAFフレームや、顔の位置に白のフレームが表示されます。
- ▶ 再生時に検出された顔の位置には、灰色のフレームが表示されます。
- ▶ オレンジ色の枠の個所が拡大表示されます。

2 拡大表示する個所を変える

- ● (FUNC. SET)を押すと、別の枠に移動します。

3 拡大率や表示位置を変える

- ● ズームレバーをQ側へ1度押します。
- ● ズームレバーを操作して表示倍率を変えたり、▲▼◀▶で表示位置を変えながら確認します。
- ● MENUボタンを押すと、手順1に戻ります。

拡大して見る

表示位置の目安

ズームレバーを側へ押す

- 拡大表示になり［］が表示されて、押し続けると最大約10倍まで拡大できます。
- ▲▼◀▶を押すと、表示位置が移動します。
- ズームレバーを側へ押すと縮小表示になり、押し続けると1枚表示に戻ります。
- ［］が表示されている状態でを押すと、［］表示に切り換わり、◀▶で拡大したまま画像を切り換えられます。もう一度を押すともとに戻ります。

画像を切り換えたときの効果を変える

1枚表示で画像を切り換えたときの見えかた（効果）を、3種類から選べます。

［再生効果］を選ぶ

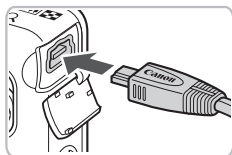
- MENUボタンを押して、［］タブの［再生効果］を選び、◀▶を押して項目を選びます。
- MENUボタンを押すと設定されます。

	効果なしで画像が表示されます。
	一瞬画像が消えたあと、次の画像が表示されます。
	◀▶を押した方向に画像が切り換わって表示されます。

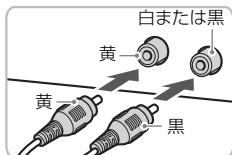
テレビで見る

付属のAVケーブルでカメラとテレビをつなぎ、撮影した画像を見ることができます。

用意するもの

- カメラとテレビ
- 付属のAVケーブル（p.2）

1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルのプラグを、図のようにテレビの入力端子へしっかりと差し込みます。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えをケーブルでつないだ入力にする

4 カメラの電源を入れる

- ▶を押して電源を入れます。
- ▶ 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。
- 見終わったらカメラとテレビの電源を切ってから、AVケーブルを抜きます。

? 画像がテレビに正しく表示されないときは？

出力方式（NTSC/PAL）があわないと、画像が正しく表示されません。**MENU**ボタンを押して、[Ƴ͠]タブの［ビデオ出力方式］で出力方式を変えてください（日本国内の出力方式は、「NTSC」です）。

O-π 保護する

大切な画像をカメラの消去機能（p.26、95）で誤って消さないよう、保護することができます。

1 ［保護］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［保護］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 保護する

- ◀▶を押して画像を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 保護されると［O-π］が表示されます。
- もう一度(FUNC SET)を押すと解除され、［O-π］が消えます。
- 保護したい画像が複数あるときは、上記の操作を繰り返します。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

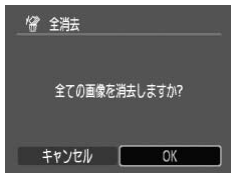
カードを初期化（p.20、49）すると、保護された画像も消えます。

保護された画像は、カメラの消去機能では消えません。画像を消すときは、保護を解除してください。

まとめて消す

すべての画像をまとめて消せます。消した画像は復元できないので、十分に確認してから消してください。ただし、保護された画像（p.94）は消えません。

1 ［全消去］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［全消去］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 すべての画像を消す

- ◀▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ すべての画像が消えます。
- ▶ MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

回転する

画像の向きを変えて保存することができます。

1 ［回転］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［回転］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 回転させる

- ◀▶を押して画像を選びます。
- (FUNC/SET)を押すたびに90度単位で回転します。
- MENUボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

画像を小さくする（リサイズ）

撮影した画像を小さな記録画素数にして、別画像として保存できます。

1 ［リサイズ］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［リサイズ］を選び、(FUNC. SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀▶を押して画像を選び、(FUNC. SET)を押します。

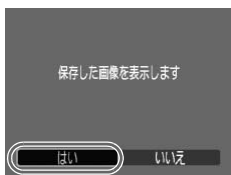
3 大きさを選ぶ

- ◀▶を押して大きさを選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶［新規保存しますか？］が表示されます。

4 新規保存する

- ◀▶を押して［OK］を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶別画像として保存されます。

5 画像を確認する

- MENUボタンを押すと、［保存した画像を表示します］が表示されます。◀▶を押して［はい］を選び(FUNC. SET)を押すと、保存した画像が表示されます。

- 撮影した画像の記録画素数よりも大きくはできません。
- ［W］［XS］の画像はリサイズできません。

暗い被写体を明るくする（暗部補正）

人の顔や被写体が暗く撮影された画像の、人の顔や暗い部分を検出して明るく補正し、別画像として保存できます。補正方法は、［自動］［弱］［中］［強］の4種類から選べます。

1 ［暗部補正］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［暗部補正］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 項目を選ぶ

- ◀▶を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。

4 新規保存して画像を確認する

- p.96の手順4〜5の操作を行います。

［自動］では思いどおりに補正されない？

［弱］［中］［強］のいずれかを選んで補正します。

- 画像によっては、画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- 同じ画像に対して補正を繰り返すと、画像が粗くなることがあります。

赤目を補正する

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正して、別画像として保存できます。

1 ［赤目補正］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［赤目補正］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［赤目補正］画面が表示されます。

2 画像を選ぶ

- ◀▶を押して画像を選びます。

3 補正する

- (FUNC/SET)を押すと、検出された赤目部分が補正され、補正した部分に枠が表示されます。
- 「Q 拡大して見る」(p.92) の操作で画像を拡大／縮小できます。

4 新規保存して画像を確認する

- ▲▼◀▶を押して［新規保存］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶別画像として保存されます。
- p.96の手順5の操作を行います。

- 画像によっては、正しく補正されないことがあります。
- 手順4で［上書き保存］を選んだときは、補正内容で上書きされるため、補正前の画像は残りません。
- 保護されている画像は上書き保存できません。

印刷指定（DPOF）

カード内の画像の中から印刷したい画像や印刷枚数などを指定して、一括印刷や写真店への印刷注文ができます（最大998画像）。この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。

印刷内容の設定

印刷タイプや日付、画像番号といった印刷内容を設定できます。この設定は、印刷指定したすべての画像に共通して適用されます。

1 ［印刷の設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［凸］タブの［印刷の設定］を選び、(FUNC SET)を押します。

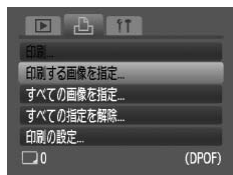
2 設定する

- ▲▼を押して項目を選び、◀▶を押して設定します。
- ▶MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

印刷タイプ	スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷
	インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷
日付	入	撮影日を入れて印刷
	切	—
画像番号	入	画像番号を入れて印刷
	切	—
印刷後指定解除	入	印刷後、画像の印刷指定をすべて解除
	切	—

- プリンターまたは写真店によっては、印刷指定した内容が反映されないことがあります。
- 他のカメラで指定したカードをこのカメラに入れると、［!］が表示されることがあります。このカメラで指定を変更すると、設定済みの指定がすべて書き換えられることがあります。
- ［日付］を［入］に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷されることがあります。

- [インデックス] に設定したときは、[日付] と [画像番号] の両方を [入] にはできません。
- 日付の並びは、[ƒ†] タブの [日付/時刻] の設定で印刷されます (p.17)。

1枚ずつ枚数を指定する

1 [印刷する画像を指定] を選ぶ

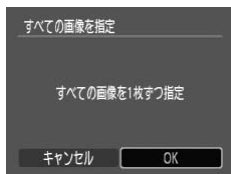
- MENUボタンを押して、[凸] タブの [印刷する画像を指定] を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 枚数指定ができるようになります。
- [インデックス] では、指定されると [✓] が表示されます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと解除され、[✓] が消えます。

3 枚数を設定する

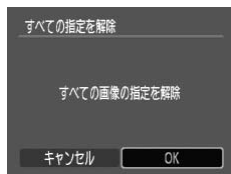
- ▲▼を押して枚数を指定します（最大99枚）。
- 手順2～3の操作を繰り返して、画像と枚数を指定します。
- [インデックス] では、枚数の指定ができません。手順2の操作で画像のみを選んでください。
- ▶ MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.99の手順1の画面で［すべての画像を指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 印刷指定する

- ◀▶を押して［OK］を選び(FUNC/SET)を押します。
- ▶ すべての画像が1枚ずつに指定されます。

すべての指定を解除する

1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.99の手順1の画面で［すべての指定を解除］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 指定を解除する

- ◀▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ すべての指定が解除されます。

指定した画像の印刷

キヤノン製SELPHYシリーズのプリンターを例にして説明します。「はじめよう！おうちプリント」（p.2）もあわせて参照してください。

印刷される枚数

1 カメラとプリンターをつなぐ（p.27）

2 印刷する

- ▲▼を押して［すぐに印刷］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 印刷がはじまります。
- 印刷を中断して再開したときは、続きの画像から印刷されます。

8

カメラの機能を自分好みに変えよう

カメラの各種機能を撮影スタイルにあわせて変えられます。
章の前半では、ふだん使う上で便利な機能について説明しています。
章の後半では、撮影機能や再生機能を目的にあわせて変える方法について説明しています。

カメラの機能を変える

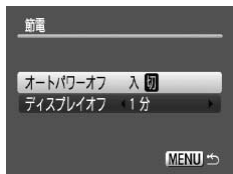
メニューの［𝐘𝐓］タブで、ふだん使う上での便利な機能を自分好みに設定できます（p.46）。

起動画面を表示しない

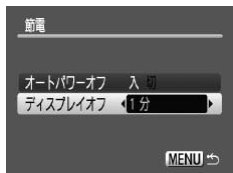
電源を入れたときに、起動画面を表示しないようにできます。

- ［起動画面］を選び、◀▶を押して［切］を選びます。

節電機能を切る

節電機能（p.44）を［切］にできます。バッテリーの消耗を防ぐため、通常は［入］をおすすめします。

- ［節電］を選び、FUNC/SETを押します。
- ▲▼を押して［オートパワーオフ］を選び、◀▶を押して［切］を選びます。
- ［切］にすると節電機能は働きません。電源の切り忘れに注意してください。

画面が消えるまでの時間を変える

節電機能（p.44）が働いて、画面が自動的に消えるまでの時間を設定できます。なお、［オートパワーオフ］が［切］のときも働きます。

- ［節電］を選び、FUNC/SETを押します。
- ▲▼を押して［ディスプレイオフ］を選び、◀▶を押して時間を選びます。
- バッテリーの消耗を防ぐため、通常は［1分］以下をおすすめします。

画像番号のつけかたを変える

撮影した画像には、撮影した順に0001～9999の番号がつけられ、1つのフォルダに2000枚ずつ保存されます。この画像番号のつけかたを変えられます。

● ［画像番号］を選び、◀▶を押して内容を選びます。

通し番号	画像番号9999の画像が撮影／保存されるまでは、カードを交換して撮影しても連番になります。
オートリセット	カードを交換すると、画像番号が0001に戻ります。

- ［通し番号］、［オートリセット］とも、交換するカードに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像番号0001の画像から順に保存したいときは、初期化（p.20）したカードをお使いください。
- フォルダ構造や保存される画像については、「ソフトウェアクイックガイド」（p.2）を参照してください。

フォルダを作る

撮影した画像を保存するフォルダを、新しく作れます。

● ［フォルダ作成］を選び、(FUNC/SET)を押します。
● ［新規作成］を選び、◀▶ を押して［✓］を表示します。
● 撮影画面（p.42）に［ ］マークが表示され、新しいフォルダに撮影した画像が保存されます。

フォルダを指定した日時に作る

指定した日時に、新しいフォルダが作れます。

- ［フォルダ作成］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ［自動作成］を選び、◀▶を押して作る間隔を選びます。
- ［作成時間］を選び、◀▶を押して作る時間を選びます。
- 設定した日時に新しいフォルダが作られ、以後、撮影した画像は新しいフォルダに保存されます。

自動回転を切る

縦位置で撮影した画像をカメラで見るときは、自動回転して縦位置で表示されます。この機能を使わないようにできます。

- ［縦横自動回転］を選び、◀▶を押して［切］を選びます。

レンズ収納時間を変える

撮影状態から▶ボタンを押して約1分経過すると、安全のためレンズが収納されます（p.25）。この収納時間を［0秒］に設定できます。

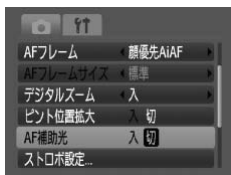
- ［レンズ収納時間］を選び、◀▶ を押して［0秒］を選びます。

撮影機能を変える

モードスイッチを●にしてPモードにし、メニューの［●］タブで設定できます（p.46）。

ここで説明する機能をPモード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.120～121）。

AF補助光（ランプ）を切る

暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせるために、ランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにできます。

- ［AF補助光］を選び、◀▶を押して［切］を選びます。

赤目緩和機能（ランプ）を切る

暗いところでのストロボ撮影では、人の目が赤く撮影されることを緩和するため、ランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにできます。

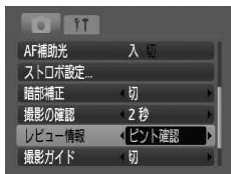
- ［ストロボ設定］を選び、FUNC/SETを押します。
- ▲▼を押して［赤目緩和ランプ］を選び、◀▶を押して［切］を選びます。

撮影後の画像表示時間を変える

撮影直後に画像が表示される時間を変えられます。

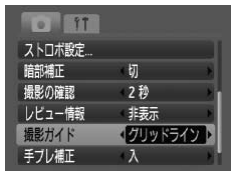
- ［撮影の確認］を選び、◀▶を押して内容を選びます。
- ［切］を選ぶと画像は表示されません。
- ［ホールド］を選ぶと、シャッターボタンを半押しするまで画像を表示します。

撮影直後の画面表示を変える

撮影後の画像表示を変えることができます。

- ［レビュー情報］を選び、◀▶を押して内容を選びます。

詳細表示	詳細情報表示（p.43）になります。
ピント確認	AFフレームの位置を拡大表示して、ピントを確認することができます。操作方法は、「ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）」（p.91）と同じです。

ガイドを表示する

撮影のときに垂直、水平の目安になる格子線や、L判やはがきなどの縦横比が3:2の用紙に印刷するときの目安を画面上に表示できます。

- ［撮影ガイド］を選び、◀▶を押して内容を選びます。

グリッドライン	格子線が画面に表示されます。
3:2ガイド	上下に灰色の帯が表示されます。この部分は縦横比が3:2の用紙に印刷されません。
両方	グリッドラインと3：2ガイドの両方が表示されます。

- ［W］では、［3:2ガイド］［両方］は設定できません。
- 「グリッドライン」は画像に記録されません。
- ［3:2ガイド］の灰色の部分は、印刷されない領域を示しています。実際の画像は、灰色の部分も画像として記録されます。

手ブレ補正の設定を変える

- ［手ブレ補正］を選び、◀▶を押して内容を選びます。

入	常時手ブレを補正します。画面上で補正効果が確認できるため、構図の確認やピント合わせがしやすくなります。
撮影時	撮影される瞬間のみ手ブレを補正します。
流し撮り	上下方向だけブレを補正します。横方向に動いているものをカメラで追いかけて撮影するときに適しています。

- 手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。三脚などでカメラを固定するときは、［切］にすることをおすすめします。
- ［流し撮り］は、カメラを横位置にして撮影します。カメラが縦位置では補正されません。

再生機能を変える

▶ボタンを押して、メニューの［▶］タブで設定できます（p.46）。

再生したときに表示する画像を選ぶ

- ［再生開始位置］を選び、◀▶を押して内容を選びます。

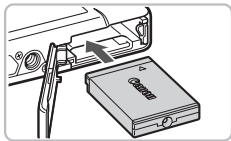
前回の画像	再生したときに、前回最後に再生した画像が表示されます。
最新の画像	再生したときに、撮影した最新画像が表示されます。

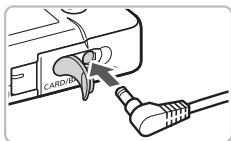
9

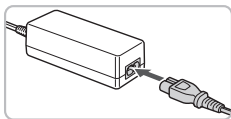
カメラを使うときに役立つ情報

ACアダプターキット（別売）の使いかたや、「故障かな？と思ったら」のほか、カメラの機能一覧を掲載しています。また、章の最後には索引を掲載しています。

家庭用電源でカメラを使う

ACアダプターキットACK-DC40（別売）を使うと、バッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 カプラーを入れる

- ふたを開き（p.14）、カプラーを図の向きにして、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。
- ふたを閉めます（p.15）。

2 プラグをカプラーにつなぐ

- カバーを開き、アダプターのプラグをカプラーの端子にしっかりと差し込みます。

3 電源コードを取り付ける

- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

カメラの電源を入れたまま、電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考に確認してください。ただし、問題が解決しないときは、別紙の相談窓口へご相談ください。

電源

電源ボタンを押してもカメラが動作しない

- バッテリーが正しい向きで入っているか確認してください（p.14）。
- カード／バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください（p.15）。
- バッテリーの端子が汚れているとバッテリー性能が低下します。綿棒などで端子を拭き、バッテリーを数回入れ直してください。

バッテリーの消耗が早い

- 低温下ではバッテリー性能が低下します。端子カバーをつけて、ポケットなどでバッテリーを温めてからお使いください。

レンズが出たままで収納されない

- 電源を入れたまま、カード／バッテリー収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じた後、電源を入れてからもう一度切ってください（p.15）。

テレビ表示

テレビに表示できない／画面が乱れる（p.93）

撮影

撮影できない

- 再生モードのとき（p.25）は、シャッターボタンを半押ししてください（p.21）。

画面が表示されない

- DISP.ボタンを押してください（p.42）。

暗い場所での画面表示がおかしい（p.44）

撮影中の画面表示がおかしい

以下の場合、撮影画像には記録されませんが動画には記録されます。注意してください。

- カメラに強い光があたると、表示が黒くなることがあります。
- 蛍光灯下で撮影すると、画面がちらつくことがあります。
- 明るい光源を撮影すると、画面に赤紫色の帯が表示されることがあります。

撮影しようとしたら、[⚡] が点滅表示されて撮影できない（p.24）

シャッターボタンを半押ししたときに、[手ブレ] が表示される（p.55）

- ［手ブレ補正］を［入］にしてください（p.109）。
- ストロボを［⚡］に設定してください（p.62）。
- ISO感度を高くしてください（p.68）。
- 三脚などでカメラを固定してください。

画像がボケて撮影されている

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、撮影してください（p.21）。
- 撮影距離範囲内に被写体を収めて撮影してください（p.124）。
- ［AF補助光］を［入］にしてください（p.107）。
- 意図しない機能（マクロ撮影など）が設定されていないか確認してください。
- フォーカスロック、AFロックで撮影してください（p.73、77）。

シャッターボタンを半押ししても、AFフレームが表示されずピントが合わない

- 被写体の明暗差がある部分を画面中央にしてシャッターボタンを半押しするか、半押しを何度か繰り返すとAFフレームが表示され、ピントが合うことがあります。

被写体が暗すぎる

- ストロボを［ϟ］にしてください（p.62）。
- 露出補正で明るさを調整してください（p.67）。
- 暗部補正機能で補正してください（p.80、97）。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください（p.78）。

被写体が明るすぎる（白トビする）

- ストロボを［⊘］にしてください（p.55）。
- 露出補正で明るさを調整してください（p.67）。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください（p.78）。
- 被写体にあたっている照明を弱めてください。

ストロボが光ったのに暗い画像になった（p.24）

- ISO感度を高くしてください（p.68）。
- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.62）。

ストロボ撮影した画像の被写体が明るすぎる（白トビする）

- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.62）。
- ストロボを［⊘］にしてください（p.55）。

ストロボ撮影時、画像に白い点などが写る

- 空気中のちりなどにストロボ光が反射しました。

画像が粗い感じになる

- ISO感度を低くして撮影してください（p.68）。
- 撮影モードによってはISO感度が高くなるため、粗い感じの画像になることがあります（p.55）。

目が赤く写る（p.81）

- ［赤目緩和ランプ］を［入］に設定してください（p.107）。ストロボ撮影のときは、ランプ（前面）が点灯（p.40）して、約1秒間は赤目現象を緩和するため撮影できません。また、写される人がランプを見ているときに効果があります。「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と効果が上がります。

ファインダーで見える範囲と、撮影された画像にズレがある（p.73）

- 被写体までの距離が近いときは、ズレが大きくなることがあります。

カードへの画像の記録時間が長い、または連続撮影速度が遅くなった

- カードをこのカメラで物理フォーマットしてください（p.49）。

撮影機能やFUNC.メニューの設定ができない

- 設定できる項目は撮影モードによって異なります。「撮影機能／FUNC.メニュー 一覧」（p.118）で確認してください。

動画撮影

正しい撮影時間が表示されない、または中断される

- カードをこのカメラで初期化するか、書き込み速度の速いカードを使ってください。撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が撮影されています（p.30）。

液晶モニターに［！］が赤く表示され、撮影が自動的に終了した

カメラの内部メモリーが少なくなりました。以下の方法を試してください。

- カードをこのカメラで物理フォーマットする（p.49）。
- 記録画素数を小さくする（p.84）。
- 書き込み速度の速いカードを使う。

ズームできない

- 撮影中はデジタルズームを使えますが、光学ズームは動作しません（p.85）。

再生

再生できない

- パソコンでファイル名やフォルダ構造を変えると再生できないことがあります。ファイル名やフォルダ構造については、「ソフトウェアクイックガイド」（p.2）を参照してください。

再生が中断する、または音声が途切れる

- このカメラで初期化したカードをお使いください（p.20）。
- 動画を、読み込み速度の遅いカードにコピーして再生すると、再生が一瞬中断することがあります。
- パソコンで画像を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れたりすることがあります。

画面に表示されるメッセージ一覧

画面にメッセージが表示されたときは、以下のように対応してください。

カードがありません

- カードが正しい向きで入っていません。カードを正しい向きで入れます（p.14）。

ライトプロテクト

- SDカード、SDHCカードのスイッチが「Lock」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えます（p.16）。

記録できません

- カードが入っていない状態で撮影しました。撮影するときは、カードを正しい向きで入れます（p.14）。

カードが異常です（p.49）

- 初期化（p.49）しても同じ表示が出るときは、故障が考えられますので、別紙の相談窓口へご相談ください。

カードがいっぱいです

- カードの空き容量がないため、撮影（p.22、51、61、75）や編集（p.96〜98）はできません。画像を消して（p.26、95）空き容量を作るか、空き容量のあるカードに交換します（p.14）。

バッテリーを交換してください（p.13）

画像がありません

- カードに表示できる画像が入っていません。

保護されています（p.94）

認識できない画像です／互換性のないJPEGです／画像が大きすぎます／RAW

- 非対応の画像やデータが壊れている画像は表示できません。
- パソコンで加工したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、表示できないことがあります。

拡大できない画像です／回転できない画像です／処理できない画像です／指定できない画像です

- 非対応の画像は、拡大（p.92）、回転（p.95）、編集（p.96〜98）、印刷指定（p.99）はできません。
- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、拡大、回転、編集、印刷指定はできないことがあります。
- 動画は、拡大（p.92）、編集（p.96〜98）はできません。

指定が多すぎます

- 印刷指定の画像を998枚より多く指定しました。指定する画像を998枚以下にします（p.99）。

指定完了できませんでした

- 印刷指定を正しく保存できませんでした。指定枚数を減らして、もう一度指定します（p.99）。

ファイル名が作成できません

- カメラが作成しようとしたフォルダ名、画像のファイル名と同じファイル名があるときや、画像番号が最大値になっているため、フォルダや画像が作成できません（p.105）。［🔧］メニューで［画像番号］を［オートリセット］に変えるか（p.105）、カードを初期化します（p.20）。

通信エラー

- カードに大量の画像（1000枚程度）があるため、パソコンに画像を取り込んだり印刷したりできません。パソコンへ取り込むときは、カードリーダー（市販品）を使います。印刷するときは、プリンターのカードスロットにカードを差して印刷します。

レンズエラーを検知しました

- レンズの不具合を検知しました。電源ボタンを押して、電源を入れ直します（p.40）。ただし、頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、別紙の相談窓口へご相談ください。
- レンズ動作中にレンズを押さえたり、ホコリや砂ボコリの立つ場所などでカメラを使うと表示されることがあります。

Exx（エラー番号）

- カメラがエラーを検知しました。電源ボタンを押して、電源を入れ直します（p.40）。
- 撮影直後に表示されたときは、撮影されていないことがあります。再生して画像を確認してください。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、「xx」の番号を控えて、別紙の相談窓口へご相談ください。

撮影機能／FUNC.メニュー 一覧

機能	撮影モード	AUTO	P		
ストロボ（p.55、62、79）	A	○	○	○	＊1
		—	○	○	＊1
		—	○	—	—
		○	○	○	○
撮影領域（p.63）	全領域	○	—	—	—
		—	○	○	○
		—	○	○	○
		—	○	○	○
露出補正（p.67）/ 露出シフト（p.85）		—	○	○	○
セルフタイマー（p.59、60、71、72）	OFF	○	○	○	○
		○	○	○	○
	10 2	○	○	○	○
	C ＊2	○	○	○	○
AFロック（p.77）		—	○	—	—
AEロック（p.78、85）/ FEロック（p.79）		—	○	—	—
テレビ表示（p.71）		○	○	○	○
画面の表示（p.42）	情報表示あり	○	○	○	○
	情報表示なし	○	○	○	○
	非表示	○	○	○	○

FUNC.メニュー 一覧					
ISO感度（p.68）	ISO AUTO	○	○	○	○
	ISO 80 ISO 100 ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600	—	○	—	—
ホワイトバランス（p.69）	AWB	○	○	○	○
		—	○	—	—
ドライブモード（p.67）		○	○	○	○
		—	○	○	○
マイカラー（p.70）	OFF V N Se BW C	—	○	—	—
測光モード（p.78）		○	○	○	○
	[ ] [•]	—	○	—	—
画質（圧縮率）（p.65）		○	○	○	○
記録画素数（p.65、84）	L M1 M2 M3 S W	○	○	○	○
	640 640 LP 320	—	—	—	—

＊1 ストロボ発光時は[ ]　＊2［時間］は0～30秒、[枚数]は1～10枚まで設定可能
＊3 ISO3200（p.54）に固定　＊4［M3］固定　＊5［W］は選択不可

										ISO 3200		
○	○	＊1	—	—	○	○	—	○	○	—	—	—
○	○	＊1	—	＊1	○	○	○	○	○	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
—	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
—	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	—	○
○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	—	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	○	○
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—

FUNC.メニュー 一覧												
○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	＊3	○	○
—	—	—	—	○	—	—	—	—	—		○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	＊4	＊5	—
—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	○

○選択可能または自動設定　—選択不可

メニュー 一覧

撮影タブメニュー 一覧

機能		AUTO	P	(人物)	(風景)
AFフレーム（p.76）	顔優先AiAF	○	○	○	○
	中央	—	○	○	○
AFフレームサイズ（p.76）	標準 / 小	—	○	—	—
デジタルズーム（p.56）	入 / 切	○	○	○	○
	テレコン1.4x / テレコン2.3x	○	○	○	○
ピント位置拡大（p.77）	入 / 切	○	○	○	○
AF補助光（p.107）	入 / 切	○	○	○	○
ストロボ設定（p.81）	赤目自動補正　入 / 切	○	○	○	○
	赤目緩和ランプ　入 / 切	○	○	○	○
暗部補正（p.80）	切 / 自動	＊3	○	—	—
撮影の確認（p.108）	切 / 2～10秒 / ホールド	○	○	○	○
レビュー情報（p.108）	非表示 / 詳細表示 / ピント確認	○	○	○	○
撮影ガイド（p.109）	切 / グリッドライン	○	○	○	○
	3:2ガイド / 両方	○	○	○	○
手ブレ補正（p.109）	入 / 切	＊1	○	○	○
	撮影時 / 流し撮り	—	○	○	○
日付写し込み（p.58）	切 / 日付のみ / 日付+時刻	○	○	○	○

＊1 常時［入］　＊2［⚡］選択時に可能　＊3 常時［自動］

										ISO 3200		
○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	*1	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
○	○	○	—	○	○	○	*2	○	○	○	○	○
○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	—	—	—
○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—

○選択可能または自動設定　—選択不可

設定タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
消音	入 / 切*	p.47
音量	各種操作音を5段階に設定	p.47
液晶の明るさ	±2の範囲で設定	p.50
起動画面	入* / 切	p.104
カードの初期化	記録内容を初期化して消去	p.20、49
画像番号	通し番号* / オートリセット	p.105
フォルダ作成	新規作成と自動作成	p.105、106
縦横自動回転	入* / 切	p.106
レンズ収納時間	1分* / 0秒	p.106
節電	オートパワーオフ：入* / 切 ディスプレイオフ：10～30秒 / 1*～3分	p.44、104
日付 / 時刻	日付 / 時刻の設定	p.18
ビデオ出力方式	NTSC* / PAL	p.93
言語	表示言語を選択	p.19
初期設定	カメラの設定を初期状態に戻す	p.48

* 初期設定

再生タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
スライドショー	画像と動画の自動再生	p.90
暗部補正	画像の暗い部分を補正	p.97
赤目補正	画像の赤目部分を補正	p.98
リサイズ	画像を小さくして保存	p.96
保護	画像と動画の保護	p.94
回転	画像と動画の縦横回転	p.95
全消去	画像と動画の一括消去	p.95
再生開始位置	前回の画像* / 最新の画像	p.110
再生効果	/ * /	p.92

* 初期設定

印刷タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
印刷	印刷画面を表示	p.27
印刷する画像を指定	印刷する画像を1枚ずつ指定	p.100
すべての画像を指定	すべての画像を印刷する画像に指定	p.101
すべての指定を解除	すべての印刷指定を解除	p.101
印刷の設定	印刷のスタイルを設定	p.99

主な仕様

カメラ部有効画素数	約1000万画素
撮影素子	1/2.3型CCD（総画素数 約1030万画素）
レンズ	6.2（W）－ 18.6（T）mm 35mmフィルム換算：35（W）－ 105（T）mm F2.8（W）－ F4.9（T）
デジタルズーム	約4.0倍（光学ズームと合わせて最大12倍相当）
光学ファインダー	実像式ズームファインダー
液晶モニター	2.5型TFT液晶カラーモニター 約23万ドット、視野率100％
AFフレームモード	顔優先AiAF / 中央
撮影距離（レンズ先端より）	オート：3cm～∞（W）/ 30cm～∞（T）、 通常：30cm～∞、遠景：3m～∞ マクロ：3～50cm（W）/ 30～50cm（T） デジタルマクロ：3～10cm キッズ&ペット：1m～∞
シャッター	メカニカルシャッター・電子シャッター
シャッタースピード	1～1/1500秒 15～1/1500秒（すべての撮影モードをあわせたシャッタースピード範囲）
手ブレ補正	レンズシフト方式
測光方式	評価 / 中央部重点平均 / スポット
露出補正	±2段（1/3段ステップ）
ISO感度 （標準出力感度・推奨露光指数）	オート、ISO80 / 100 / 200 / 400 / 800 / 1600
ホワイトバランス	オート / 太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯H / マニュアル
内蔵ストロボ	オート / 常時発光 / スローシンクロ / 発光禁止 ＊ 赤目自動補正 / 赤目緩和ランプ設定可能
内蔵ストロボ調光範囲	30cm～4.2m（W）/ 30cm～2.4m（T）
撮影モード	オート、プログラムAE、ポートレート、ナイトスナップ、キッズ&ペット、パーティ / 室内、夕焼け、打上げ花火、長秒時撮影、ビーチ、水中、水族館、新緑/紅葉、スノー、ISO3200、デジタルマクロ、動画
連続撮影	約1.4枚/秒
セルフタイマー	10秒 / 2秒 / 顔セルフタイマー / カスタム
暗部補正	切 / 自動
記録媒体	SDメモリーカード / SDHCメモリーカード / MultiMediaカード / MMCplusカード / HC MMCplusカード
ファイルフォーマット	DCF準拠＊、DPOF対応 ＊ DCFは（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

データタイプ........................ 静止画：Exif 2.2（JPEG）
動画：AVI（画像：Motion JPEG、音声：WAVE（モノラル））
圧縮率.................................. ファイン / ノーマル
記録画素数（静止画)........... ラージ　：3648×2736画素
ミドル1　：2816×2112画素
ミドル2　：2272×1704画素
ミドル3　：1600×1200画素
スモール：640×480画素
ワイド　：3648×2048画素
（動画）............640×480画素（30フレーム/秒）
640×480画素（30フレーム/秒LP）
320×240画素（30フレーム/秒）
撮影可能枚数........................ 液晶モニター表示時：約260枚（CIPA測定法準拠）
液晶モニター非表示時：約700枚
音声...................................... 量子化ビット：16ビット
音質（サンプリングレート）：44.100kHz
再生機能..........................1画像再生 / 動画再生 / ピント位置拡大 / インデックス再生 / 拡大再生 / ジャンプ / スライドショー
編集機能............................... 消去 / 保護 / リサイズ / 暗部補正 / 回転 / 赤目補正
ダイレクトプリント方式....PictBridge対応
インターフェース............. Hi-Speed USB（デジタル・音声・映像一体型専用コネクター*）＊mini-B互換
映像/音声出力（NTSCまたはPAL切換可能、モノラル音声）
通信プロトコル設定..........MTP、PTP
電源...................................... バッテリーパックNB-6L（専用リチウムイオン充電池）
ACアダプターキットACK-DC40
動作温度..........................0～40℃
動作湿度..........................10～90%
大きさ（突起部を除く）......88.5×54.8×21.8mm
質量（本体のみ).................. 約120g

バッテリーパックNB-6L

形式……………………リチウムイオン充電池
公称電圧………………DC3.7V
公称容量………………1000mAh
充放電…………………約300回
使用温度………………0～40℃
大きさ…………………34.4×41.8×6.9mm
質量……………………約21g

バッテリーチャージャー CB-2LY

定格入力………………AC100～240V（50/60Hz）、0.085A（100V）～0.05A（240V）
定格出力………………DC4.2V、0.7A
充電時間………………約1時間55分
使用温度………………0～40℃
大きさ…………………58.6×86.4×24.1mm
質量……………………約70g

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様、および外観の一部を予告なく変更することがあります。

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。
  詳細は、有限責任中間法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

日ごろの取り扱いについて

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを磁石やモーターなどの、強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像が消えたりすることがあります。
- カメラや画面に水滴や汚れがついたときは、メガネ拭きなどのやわらかい布で拭きとってください。ただし、強くこすったり、押したりしないでください。
- 有機溶剤を含むクリーナーなどでは、絶対にカメラや画面を拭かないでください。
- レンズにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。汚れがひどいときは、別紙の相談窓口にご相談ください。
- カメラを寒いところから急に暑いところへ移すと、カメラに結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから暑いところへ移すときは結露の発生を防ぐため、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますのでカメラを使わないでください。バッテリー、カードをカメラから取り出し、水滴が消えてから、カメラを使ってください。

カードについて

- カードは精密にできています。曲げたり、落としたり、振動を与えないでください。カードに記録されている画像が消えることがあります。
- カードに液体をこぼしたり、端子部に手や金属で触れたりしないでください。
- テレビやスピーカーなど、磁力や静電気の発生しやすいところに保管しないでください。カードに記録されている画像が消えることがあります。
- 温度の高いところ、ホコリや湿気の多いところに保管しないでください。

索引

【た】

【な】

【は】

【ま】

【や】

【ら】

【わ】

補修用性能部品について

保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

妨害電波自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）に従って正しい取り扱いをして下さい。

商標について

- DCFは、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- SDHCロゴは商標です。

このガイドについて

- 内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- 内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- イラストや画面表示は、実際と一部異なることがあります。
- 内容については万全を期していますが、万一不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がありましたら、別紙の相談窓口までご連絡ください。
- このカメラを運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター　050-555-90005

受付時間：平日 9：00～20：00／土・日・祝日 10：00～17：00

（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は、043-211-9630をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Li-ion

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CDI-J387-020　XXXXXXX　　PRINTED IN JAPAN